

平成26年 第13回
教育委員会臨時会会議録

平成26年7月15日（火）
港区教育委員会

港区教育委員会会議録

第2403号

平成26年第13回臨時会

日時 平成26年7月15日(火) 午前10時00分開会

場所 教育委員会室

「出席委員」

委 員 長	綱 川 智 久
委員長職務代理者	澤 孝一郎
委 員	永 山 幸 江
委 員	小 島 洋 祐
教 育 長	小 池 眞喜夫

「説明のため出席した事務局職員」

次 長	安 田 雅 俊
庶務課長	佐 藤 雅 志
教育政策担当課長	橋 本 誠
学務課長	新 井 樹 夫
学校施設担当課長	奥 津 英一郎
生涯学習推進課長	白 井 隆 司
図書・文化財課長	前 田 憲 一
指導室長	渡 辺 裕 之

「書記」

庶務課庶務係長	小野口 敬 一
庶務課庶務係	鈴 木 さよ子

「議題等」

日程第1 請願又は陳情

- 1 港区の学童クラブの充実を求める陳情書

日程第2 審議事項

- 1 議案第60号 南青山四丁目用地の暫定活用整備について

日程第3 協議事項

- 1 平成26年度港区指定文化財の諮問について

日程第4 教育長報告事項

- 1 港区立中学校合同学校説明会について
- 2 生涯学習推進課の8月事業予定について
- 3 平成26年度夏季学校プール開放について

- 4 図書館・郷土資料館の8月行事予定について
- 5 8月指導室事業予定について
- 6 平成27年度使用教科書採択について（秘密会）

「開 会」

○綱川委員長 おはようございます。ただいまから平成26年第13回港区教育委員会臨時会を開会いたします。(午前10時00分)

「会議録署名委員」

○綱川委員長 それでは、日程に入ります。

本日の署名委員は、澤委員にお願いいたします。

第1 請願又は陳情

1 港区の学童クラブの充実を求める陳情書

○綱川委員長 日程第1、請願または陳情に入ります。

平成26年7月11日付で港区の学童クラブの充実を求める陳情書が提出されました。

本日は、同日付で受理した陳情書について、陳情者から趣旨説明の希望がございましたのでお伺いしたいと思います。

陳情者の方は発言席にお越しく下さい。ご着席ください。

それでは、陳情の内容について、庶務課長、説明をお願いいたします。

○庶務課長 港区の学童クラブの充実を求める陳情書でございます。

これにつきましては、あらかじめ配付しております資料ナンバー8のとおりでございます。

それでは、内容につきまして、陳情の項目ごとに概要をご説明いたします。

1点目です。児童数の増に伴いまして、今後、正確な需要をしっかりと見込んで、余裕を持った学童クラブの設置をお願いしたいというものでございます。

おめぐりいただいて2点目、現在、放課GOのみ設置されている小学校もある中で、全小学校で学童クラブの設置を求めるというものでございます。

3点目、学童クラブ、放課GO、放課GOクラブは、所管がまたがっているというところでの一元化を求めるというものでございます。

4点目、育児休業中は学童クラブを退会しなければならないという、この基準の見直しをお願いするものでございます。

5点目、保育園の退所時間に合わせまして、学童クラブにおいても退所時間の延長をお願いするところでございます。

6点目、おやつや夕食の提供をお願いしたいということであります。

7点目、国立、私学、インターナショナルスクールなどの児童への配慮をお願いするというものでございます。

8点目、学童クラブに関して、ホームページなどによる情報発信の充実が必要だということで、これを求めるものでございます。

9点目、学童クラブにおきまして、プログラム内容の充実、外遊びですとか、運動に関して、も

っと増やして質の向上をお願いする内容でございます。

最後は、保育園で行われているように、学童クラブを利用している保護者にアンケートを実施をして、その結果を反映させてほしいというものでございます。

以上、10項目について、簡単でございますが、説明は以上でございます。

○綱川委員長 それでは、陳情者を代表して、太田ゆかりさんから陳情の趣旨説明をお願いいたします。どうぞお座り下さい。

○陳情者 太田ゆかりと申します。簡単に自己紹介しますと、港区に10年以上住んでいましてワーキングマザーです。上の子は、芝公園保育園の年中になりました。下の子は今、4カ月にちょうどなるところです。フルタイムで働いておりますが、今は育児休業を取得中です。

陳情したきっかけは、今年度、区政モニターをやっている状態で、学童クラブが不安だということで陳情させていただきました。なぜかという、上の子が保育園に入るとき、すごく苦労しましたが、区として保育園、認可保育園を、とても増やしていただいたので、今はすごく入りやすくなってきています。その子たちが小学校に上がります。学童クラブは足りてなくて、保育園からの子どもたちがあふれてしまうということがもう明白に見えているので、学童クラブを充実しなくてはならないと思い陳情いたしました。

港区では共働き世帯がすごく増えています。学童クラブというのは、働いている親が小学校の放課後の時間に子どもを預ける場所ですので、そこに安心して預けられないとすると、子ども自身そして親子関係も不安定になる事態を招きかねません。そうならないように、学童クラブを充実したいという思いです。

国も、少子化とか女性の推進とか言われる中で、教育政策や放課後支援政策を充実させなくてはというのであれば、共働き世帯もそれが十分使えるというような前提で見直していただけたらと思います。

今回、なぜ教育委員会に陳情を出しているかというところですが、これは、学校の施設を学童クラブにも開放していただきたいということです。学校は、子どもにとって一番の場所で私たち親の会で話している中で、子どもたちを、放課後、例えば、運動させたいとか、安全に過ごさせたい、友達と一緒に過ごさせてあげたいとなると、学校には校庭や体育館、教室もあります。外遊びできる施設が学校にはあります。

今、小学1年生が、学校外の学童クラブに、40分歩いて行っているという実態があります。安全という意味でも、学校を学童クラブに開放してほしいという趣旨で、教育委員会にも陳情を出させていただきましたということです。学校側にも、放課後の時間は子どもにとっても長い時間なので、子どもの成長になるという総合的な観点から、放課後支援政策を考えていただきたいと思います。具体的に言うと、学童クラブへの部屋貸しだけでなく、もっと学童クラブに学校施設を貸していただきたいです。

幼稚園は、降園後空いていますから、そういうところを活用しなさいと、国の支援制度にも入っ

ています。幼稚園が降園後空いているのならそこを、幼稚園と小学校が一体のところでは使わせていただくなどの支援等していただけたらなと思っています。よろしくお願いします。

○綱川委員長 ありがとうございます。趣旨説明の内容等に質問がございましたら、お願いいたします。

○小島委員 今、太田さんが述べられた趣旨は大変良いことだと思います。特に、少子高齢化のこの社会において、お子さんの数がどんどん増えて、港区として、日本の活力を保持していくためにも、今、お子さんをどう育てていくかということは、非常に大切なことで、太田さんの趣旨は、それに沿って、非常にわかりやすいことです。教育委員会としてもできる限りの応援をしたいという気持ちでおります。

○陳情者 ありがとうございます。

○小島委員 ただ、我々、教育委員会側とすると、本質的には同じですが、子どもたちの幼稚園の幼児教育、小学校の児童教育、いかにその「徳・知・体」をどう発達させていくか。それから、学力の充実を図って、そのレベルを一段と向上させなくてはいけないという立場にいと、子どもたちが増えると、教室数との関係もあるので、非常にその辺も今心配していて、太田さんのご要望の学童クラブへ、どれだけ施設と空間を回せるのかという、危惧はしているところです。

○陳情者 わかります。

○小島委員 ですから、教育委員会だけでは、なかなか難しい問題なので、区長部局ともよく相談しながら、教育委員会としてもできることは何なのか、よく検討していきたいと思います。

○陳情者 ありがとうございます。

○小島委員 ちょっと抽象的な言い方で申しわけありません。

○陳情者 小学校の児童数が増えて、学校の教室は、いっぱいいっぱいなのですね。

○小島委員 そうなんです。今もう教室も足りないだろうということです。なかなか学童まで目が行きづらい状況があります。

○陳情者 そうですね。ただ、区立保育園は、相当増やしていて、子どもたちが毎年卒園していつて、放課後その子どもたちの居場所がないとなってくると、それはそれで困ってしまいます。

例えば、家庭科室使おうか、特別教室使おうかとか、隣に幼稚園があったら、これを使うとか、どうにか知恵を絞れないかということですね。

○小島委員 そういうことですよね。だから、知恵を絞れば、まだまだ、校庭をどう利用するかとか、その辺は、教室数とは関係ない問題ですから。

○陳情者 そうですね。ただ、専用の部屋を、設けなくてはならないので、まあ、大変でもあるのでしょうか。

○澤委員 港区の場合、太田さんが言われているように、この教育委員会の席上でも話題になるのですが、高齢化と言われているんですが、一方では、若いご夫妻もまたどんどん増えています。

人口に関しては、高齢化もそうですが、子どもも増えています。

太田さんの言われるように、共働きの家庭で、子どもたちが放課後の時間を、どう過ごしたらいい

のかということ、多分切実な問題だと思います。ただ、これは、一港区だけでなく、企業も考えてもらう必要があるわけです。教育委員会だけではなくて、企業、それから国、それも含めて子育てしやすい仕組みをつくるべきです。

教育委員会としても、今、児童数が増えて、教室が足りなくなってきた、学校を一つ建てないといけないのではないかなというふうな、そういう状況の中で、太田さんが言われるようなことも、区長部局とも相談しながらきちんと対応を検討したいと思います。

日本の未来を背負っていく子どもたちに、いい環境をつくるということが、やはり行政の大きな役割ですから。

○陳情者 学校の施設は子どもにとって、とてもいいところなので、わかってくださいというお願いです。

○綱川委員長 放課GOによっては、体育館が使えたり、家庭科教室が使えるところもありますので、教育委員会の事務局と、我々もなるべく学校のほうには協力するように働きかけていきたいと思えます。あと、企業というお話が出ましたけれども、育休復帰後、子育てに費やす時間をとることが難しいという話も聞いています。企業の協力も得て、社会的制度として、諸外国みたいにやっついていかないとだめだと思います。それはまた国の政策でもあると思えますので。

この案件につきましては、事務局でも種々検討しておりまして、教育委員会も適切に対応したいと思います。陳情者の太田さん、お疲れ様でした。

○陳情者 ありがとうございます。

第2 審議事項

1 議案第60号 南青山四丁目用地の暫定活用整備について

○綱川委員長 それでは、日程第2、審議事項に入ります。

議案第60号南青山四丁目用地の暫定活用整備について。学校施設担当課長、説明をお願いします。

○学校施設担当課長 議案資料ナンバー1の「南青山四丁目用地の暫定活用整備について」、参考資料1の「案内図」、参考資料2、「平成25年8月6日第8回教育委員会資料—南青山四丁目用地の取得について」を用いてご説明させていただきます。

今回、取得する用地については、青南小学校の教育環境のためのものですが、区の喫緊の課題に対応するため、既に取得している用地に暫定活用を行うこととしております。

なお、参考資料2に平成25年8月12日付で教育長から区長へ、南青山四丁目の用地の取得依頼を添付しております。後ほどご確認願います。

恐れ入りますが、資料ナンバー1の1ページをご覧ください。

まず、1の敷地概要ですが、今回、取得用地の敷地面積が2,348.04平米です。

次に、敷地の状況ですが、資料記載のとおりです。現在取得用地は解体工事中です。

恐れ入りますが、2ページをご覧ください。案内図を添付しております。

なお、参考資料1に拡大した案内図を掲載しておりますので後ほどご確認願います。

次に、3の整備方針についてです。

最初に、(1) 青南小学校第2グラウンドの拡張、これが約800平米を広げ、一体的に整備し屋外運動場の設置基準を満たします。

次に、(2) 放課GOの移転、設置です。

80名程度定員を拡充します。また、今後、学童クラブの需要の変化を柔軟に対応できるよう、クラブ室に転用できる多目的室を1室設け、最大120名程度まで拡大します。

恐れ入りますが、3ページをご覧ください。

(3) 青南幼稚園の定員増への対応です。4、5歳児については30名定員の2クラス分を確保し、幼稚園定員を拡大します。

最後に、(4) の青山生涯学習館の移転です。

新設予定の放課GO→クラブせいなんと合築し、隣接の当用地に移転します。移転にあわせてエレベーターの設置や車椅子に対応した施設を設置し、バリアフリー化とともに学習成果を発表する場として展示コーナーを設置します。

恐れ入りますが、4ページをご覧ください。

4の施設配置です。区長部局の関係部署と協議を重ねてまいりました。用地の全体的なメリット・デメリットを検証してきた結果、暫定活用について資料記載の配置といたします。

なお、ページの下に第2グラウンドと取得用地との断面イメージを掲載しておりますので、あわせてご確認願います。

恐れ入りますが、5ページをご覧ください。

施設配置に至った理由です。3点あります。

1点目は、既に取得用地と今回取得用地との高低差が約1.3メートルあります。既存の第2グラウンドの拡張については段差が生じないようにすることで、管理上、より目が行き届き、死角をつくらない、安全で安心な環境整備が学校から要望されております。

同一レベルである取得用地側へ拡張する場合は、平成22年で設置した既存保育室を移転・解体する必要があります。安定的な既存保育運営に大きく支障を来すことになるため、取得用地側へグラウンドを拡張整備いたします。

2点目は、グラウンドの拡張整備は暫定であることから、土地の造成を伴わない第2グラウンドを一体的に整備するために、人口地盤の設置が必要となります。そのため、人口地盤を採用いたします。

3点目は、グラウンドを一体的に整備することにより、有効敷地面積が広がり、ドッジボールなど使用用途を可能とします。

次に、(2) の施設概要です。

最初に、緊急暫定保育施設です。構造は、鉄骨造、地上2階建て、建築面積は約510平米、延

べ面積は997平米です。

次に、青山生涯学習館及び放課GO→クラブせいなんについてです。構造は、鉄骨造、地上2階建て、建築面積は約500平米、延べ面積は約1,000平米。

最後に、青南小学校第2グラウンドについてです。整備面積は、拡張面積が約800平米で、合計で2,244平米です。

恐れ入りますが、6ページをご覧ください。

6の今後のスケジュールです。

本日、教育委員会、その後、庁議、議会報告を経まして、来年4月に工事着手を見込んでおります。平成27年7月に工事完了、議会報告、9月に、青南小学校第2グラウンド、青山生涯学習館、放課GO→クラブせいなんの運用を開始しております。

甚だ簡単ではございますが、説明は以上となります。よろしくご審議の上、ご決定くださいますようお願いいたします。

○綱川委員長 ただいまの説明に対してご質問ございますでしょうか。人口地盤にしているということは、開発行為にかからないようにするためにということですか。

○学校施設担当課長 そのとおりです。開発行為をしないということで考えております。

○綱川委員長 従前からご説明いただいておりますので、採決に入ってよろしいでしょうか。

(異議なし)

○綱川委員長 それでは、議案第60号について原案どおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

○綱川委員長 ご異議がないようですので、議案第60号については原案どおり可決することに決定いたしました。

第3 協議事項

1 平成26年度港区指定文化財の諮問について

○綱川委員長 次に、日程第3、協議事項に入ります。

平成26年度港区指定文化財の諮問について。図書・文化財課長、説明をお願いします。

○図書・文化財課長 平成26年度港区指定文化財の諮問につきまして、資料を使いましてご説明をさせていただきます。

まず、今回諮問させていただきますものが2点ございまして、1点が、山本家文書、2点が、明治学院で所蔵しておりますメーソン&ハムリン社製415型リードオルガンでございます。

まず、山本家文書についてご説明させていただきます。

山本家文書につきましては、平成7年10月に、この歳泉堂を再興いたしました山本遥秀様のご子息である、山本文雄様より、当港区教育委員会に寄贈された文書でございます。

歳泉堂は私塾でございまして、江戸時代、港区内には寺子屋、約47あったそうでございますが、明治以降も続いているものがその中で28ございまして、山本学校もその中に含まれるものでござい

ます。

その山本家文書を研究されておりました、当時、慶應大学に在籍されておりました藤田薫先生が研究されておりました、その関係で港区へこの文書が引き継がれたという経過でございます。

続いて、明治学院で所蔵しておりますメーソン&ハムリン社製のオルガンでございますが、こちらにつきましては、平成9年に全面的な修理を実施し、現在は明治学院の行事等に使用されているものでございます。当時のものが使えるという、非常に貴重な文化財でございますので、今回この対象といたしました。

以上、ご説明をさせていただきます。

○**綱川委員長** ただいまの説明に対して、ご意見・ご質問はございますでしょうか。

○**澤委員** 1番目の赤坂の山本学校の資料、私も地元が赤坂なので非常に興味深いです。この山本学校の話は、藤田先生が赤坂の学校の歴史を、特に明治時代を調べてくださって、この資料が教育委員会に引き継がれたということですか。

私もびっくりしたのですが、日本では学制発布の前から、山本学校自身も、これで見ると寛政2年開設ですから、江戸の初期からもう開いていた学校です。今、江戸時代が見直されていますけれども、改めて、日本というのは明治維新になる前から教育には熱心だったのだなという印象を持ちました。

○**図書・文化財課長** 澤委員のお話のとおり、本件につきましては、当時、慶應義塾で教鞭をとられておりました藤田氏のご尽力をいただいて寄贈に至ったものでございます。

本件、山本学校につきましては、丹後町尋常小学校と名をかえ、100年近く続いたものでございますが、残念ながら、明治30年に廃校となって歴史を閉じ、現在は残存していないということでございます。

以上でございます。

○**小島委員** 澤委員も言われたように、江戸時代の教育というのは、日本のレベルもかなり高いのですよね、算術の関孝和など西洋の数学に劣らない高度のものだったわけです。このような高い教育レベルのもとになっているのが、子どもたちに、読み書きそろばんを教える寺子屋で、その寺子屋は日本全国どこでもあったようです。お寺でご住職さんが、また町なかでは浪人が、塾を開いて教えていた。この黒鍛組という、江戸幕府でいわば工兵をやっていた人が学校をつくってこうなったのは珍しいと思いますが、ご家人が、こういう寺子屋を開いていたというのは結構あるのですか。

○**図書・文化財課長** 委員ご指摘のとおり、黒鍛組は、城内の雑役をこなす下級武士でございまして、戦国時代には、築城、開墾、道普請に従った人夫を指しております。

先ほど申しました、藤田先生の研究によりますと、山本学校は、黒鍛組の屋敷敷地内の子弟を対象に寺子屋として始めたというものでございまして、幕末後、大規模な寺子屋へと発展し、瓦解後は、旧幕臣が新時代の聖堂として営む寺子屋となり、学制後は官許を得て、家塾、小学校教則の講習を受けて私立学校となり、代用小学校の指定を受けた後に廃校に至るということになってございます。

○小島委員 よくわかりました。

○綱川委員長 それでは、この案件はよろしいでしょうか。

(異議なし)

第4 教育長報告事項

1 港区立中学校合同学校説明会について

○綱川委員長 続きまして、日程第4、教育長報告事項に入ります。

まず最初に、港区立中学校合同学校説明会について。学務課長、説明をお願いします。

○学務課長 それでは、中学校合同学校説明会についてご報告をさせていただきます。

なお、教育委員の皆様方には、当日、さまざまなご協力をいただきましてありがとうございました。この場をお借りいたしまして御礼を申し上げます。

それでは、資料をご覧ください。

日時は平成26年の7月5日でございます。場所は、赤坂区民センターです。参加者数でございますけれども、合計を見ていただくと254名、一番下の昨年度と比べると7名減となります。

増減の内容でございます。微増微減はありますけれども、大きく増加したところは芝浦小学校、昨年度の、23名から35名の増加でございます。

それから、高輪台小学校が9名から21名と、増えております。

三光小学校、神応小学校が合計、昨年度が19名でしたが、今年度は13名に減っております。

赤坂小学校が、昨年30名であったのが16名に減っております。

そして、資料はございませんけど、簡単なアンケートをとってございまして、その結果について、ご報告をいたします。

回答率は254人中114名ということで、50%弱でございました。内容、結果です。まず説明会の全体評価は「大変満足」「ほぼ満足」が約70%でございました。さらに、「印象に残った学校」ですが、三田中学校が20%弱と高い割合を示しておりました。

なお、参考になった資料内容については、部活動や卒業生、学級数といった項目が高い割合を示しておりました。

説明は以上でございます。

○綱川委員長 三田中学校の印象強いというのは何かあったのでしょうか。

○学務課長 三田中学校は毎年高いと聞いております。

○永山委員 冊子を見せていただいて、高校の進学先が統一して記載されていたので、今年はわかりやすかったです。それから、私も三田中学校は、よかったと思いました。特に、生徒自身の学校紹介は生徒の顔がすごくよく見え、楽しそうな学校生活の様子が伝わってきました。

また、映像ではなく当日の生の声、パフォーマンスでは、ほかの学校もたくさんいいところがあり、とても参考になる説明会だったなと思いました。

○綱川委員長 今、永山委員が言われたように、今年は、全部統一的で、きれいですごくわかりや

すい、この学校はこれは書いてないけれどこっちは書いてあるとか、そういうことがなくてよかったですと思いました。

では、この案件は、この辺でよろしいでしょうか。

2 生涯学習推進課の8月事業予定について

○綱川委員長 それでは、続きまして、生涯学習課の8月事業予定について、生涯学習推進課長、説明をお願いします。

○生涯学習推進課長 それでは、生涯学習推進課の8月の事業予定についてご報告いたします。
資料ナンバーの3をご覧ください。

それぞれ生涯学習課の事業、指定管理者事業を行っております。8月の特徴としましては、スポーツの関係で毎週日曜日に行っておりました各小学校でのタグラグビー教室、8月はお休みにさせていただきますいております。

報告は以上です。

○綱川委員長 港区の7人制ラグビーのことが新聞報道されてましたね。
この案件でご質問ございますか。よろしいでしょうか。

3 平成26年度夏季学校プール開放について

○綱川委員長 次に、平成26年度夏季学校プール開放について。生涯学習推進課長、説明をお願いします。

○生涯学習推進課長 それでは、平成26年度夏季学校プール開放についてご報告をいたします。
資料ナンバーの4をご覧ください。

毎年、夏季の期間、学校のプールを開放する事業を行っております。小学校のプールを夏休みの連続した期間、おおむね3日間程度、1日2時間になりますが、開放をしております。開放校と開放日時は資料のとおりとなっております。赤羽、三光、神応、南山、赤坂小学校の5校となっております。

利用料金は無料、対象は区内の小・中学生とその保護者となっております。特徴的なのは、通常、浮き輪などの遊び道具は持ってきてはいけないところですが、このプール開放については持ち込むことを可能としてございます。

報告は以上でございます。

○綱川委員長 この案件についてご質問ございますでしょうか。三光、神応小学校については、学校施設としてのプールは最後の年になりますので、人がたくさん集まるのではないかと思います。

4 図書館・郷土資料館の8月行事予定について

○綱川委員長 それでは、次に、図書館・郷土資料館の8月行事予定について。図書・文化財課長、説明をお願いします。

○**図書・文化財課長** 図書館・郷土資料館の8月行事予定につきまして、教育委員会資料ナンバー5を使いまして、ご説明させていただきます。

まず、1ページ目、8月15日前後でございますが、平和の日にならみまして、平和関連の行事を各館で実施することとしてございます。

続いて、5ページにまいりまして、講座・セミナーの指定管理者のところに、「大人向け海洋講座 東京湾 江戸前の海の歴史」と書いてございます。こちらにつきましては、東京海洋大学の大野教授にご講義をいただくものでございます。

続きまして、6ページにまいりまして、今度は郷土資料館の予定でございますが、中程、7、8と「クジラ博士になろう」という行事が書いてございます。こちらにつきましては、東京海洋大学海洋科学部附属水産資料館との共同事業という形になってございまして、海洋大学の全面的な協力を得て実施するものでございます。図書館・郷土資料館とも海洋大学との連携事業を盛んに行っているところでございます。

7ページ目の郷土資料館での8月展示ですが、先ほど区の指定文化財について諮問させていただきましたが、昨年度指定されました宇田川家の文書について、コーナー展ということで、7月18日から10月11日まで展示をさせていただいてるものでございます。

簡単ですが、ご報告させていただきます。

○**綱川委員長** この案件につきまして、ご意見・ご質問ございますでしょうか。

(なし)

5 8月指導室事業予定について

○**綱川委員長** 次に、8月指導室事業予定について。指導室長、説明をお願いします。

○**指導室長** では、8月指導室事業予定について、教育委員会資料ナンバー6によって、ご報告をいたします。

8月は授業期間ではございません。したがって、研修会等がさまざま予定されております。

なお、8月11日から20日までは中学校の海外派遣となっております。

甚だ簡単ではございますが、説明は以上でございます。

○**綱川委員長** この案件につきましてご意見・ご質問ございますでしょうか。

(なし)

6 平成27年度使用教科書採択について（秘密会）

○**綱川委員長** 続きまして、平成27年度使用教科書採択について、この案件の説明を受ける前に、公開・非公開の取り扱いについてお諮りしたいと思います。

この案件につきましては、公正・公平な採択を期すため、公正な発言を確保すること、また、教科書選定研究委員会、教科書調査研究委員会の委員名についても、採択終了までは非公開とすることが適当と判断するため非公開としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

○**綱川委員長** 委員全員の承認を得られましたので、平成27年度使用教科書採択については、非公開とします。

なお、会議録につきましては、教科書採択決定後においては、公開とします。

また、今回配付しました教科書採択用資料につきましては、教育委員を除いて、教育委員会終了後に回収いたしますのでよろしくお願いいたします。

それでは、傍聴人はおりませんので、委員の方にお入りいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、この約2カ月の間、来年度からの港区の子どもたちが使用する教科書についてご審議をいただきました、教科書選定研究委員会委員長の高橋俊明先生からご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○**教科書選定研究委員会委員長(高橋)** おはようございます。教科書選定研究委員会委員長の白金小学校長高橋でございます。座って失礼いたします。

これまで、教科書選定研究委員会を3回ほど開催してまいりました。本日、教育委員会の席上におきまして、平成27年度区立小学校使用教科書選定資料について、各教科、種目ごとに報告をさせていただきます。

まず初めに、保健から順次9教科、11種目の教科書について、各教科代表の選定研究委員が報告をしてまいります。どうぞよろしくお願いをいたします。

○**綱川委員長** それでは、これから資料に基づきまして、教科書選定研究委員会から教科書ごとに説明をいただきながら、確認や質問をさせていただきたいと思います。よろしくお願います。

では、保健からご説明をお願いします。

○**教科書選定研究委員会委員(古家)** 皆さん、おはようございます。保健の説明をいたします。担当の港南小学校長の古家でございます。

初めに、東京書籍から参ります。東京書籍の教科書は、章ごとに学習する内容が書いてあり、見通しを持って学習を進めることができるものです。「まめちしき」のように、詳しい内容が欄外に示されているのも特徴です。

構成は見開き1ページで、一つの学習課題を示しており、ワークシートとしての使用も可能で、書き込み作業ができます。

また、振り返って、考えてみよう、話し合ってみよう、活用して深めよう、やってみよう等のプロットがわかりやすく出ています。安全教育に対応する内容と資料が豊富で、他教科へのつながりや発展的な学習のページもありますが、イラストの色合いがわかりにくいものと思っています。

続きまして、大日本図書について、お話しさせていただきます。

大日本の教科書は、課題把握、作業、話し合い、まとめと学習の流れが決まっています、学習しやすいものです。ポイントとなる内容が枠に囲まれて示されています。不安や悩みの解消に、体ほぐしの具体的な運動が表記されています。

構成は、書き込みができる欄が適度にあり、考えながら学習ができる工夫があります。単元の初めのページに、その後の学習をイメージさせるように大きなイラストが掲載されています。イラストや写真を多用しているのも特徴です。4年生の身長の変化や食生活を調べる学習で、シールを活用できるようになっているのも大きな特徴です。

続きまして、文教社についてお話し申し上げます。

文教社の教科書は、身近な事例が取り上げられていて、話し合いのための効果的なグラフが多く活用されている教科書です。ワークシートとしての活用もでき、はっきりした場面設定において、自分の考えを記入することができるようになっているのも特徴です。

調べてみよう、やってみよう等のプロットが見やすくなっていますが、考えてみようでは、答えが教科書に出てしまっているので、ヒント程度に示したほうがよいという意見が委員から多数出ました。アスリートからのメッセージが示されているので、児童が興味を持ちやすいことも文教社の教科書の特徴です。

続きまして、光文書院についてお話し申し上げます。

日常生活を中心に教材を取り上げており、身近な事例の掲載が多いのが光文書院の教科書の特徴です。

身近な事例から具体的にどのように生活を改善していけばよいのかわかりやすく示されています。

構成は、1単位時間が1見開きで終わっていないところがあり、見づらさがあります。書き込み式になっておりワークシートとしての使用もできますが、やや記入欄が小さいです。いろいろなマークを活用して内容をまとめていますが、イラストも字も多く、どの部分も強調されている感じで資料集のような印象を受けます。写真などは首都圏のものを多く使用しているのも光文書院の教科書の特徴です。

最後に、学研についてお話し申し上げます。

学研の教科書は、1単位時間で学ぶ内容が2ページで構成されており、適切な分量の教科書です。ワークシートとして書き込み式にもなっています。「活用」という記述欄で、実践科へとつなげる構成になっており、日常生活へとかかわりが持たせられるのも特徴です。

学習のまとめのページでは、単元の学習を振り返ることができるようになっています。表記もキーワードが、太字、明朝体、丸ゴシックで表記されており読みやすいです。絵や図もバランスよく配置されており、イラストと写真の量も適度なものです。発展的な学習にも対応しており、パソコンやタブレットの健康への影響やその他の病気にも触れ、幅広い知識に対応できるようになっているのも学研の教科書の特徴です。

以上でございます。

○綱川委員長 ただいまの説明に対して、ご質問ございますでしょうか。

○澤委員 いろいろ貴重な時間を割いていただいて、ありがとうございます。今の説明の中で、東書の3番の表記・表現で、イラストの色合いがわかりにくいと、あるのですが、これはどういふところを言っているのでしょうか。全体的なことですか。

○教科書選定研究委員会委員（古家） 全体的なイメージです。

○澤委員 ほかと比べると若干という、そういうことですか。

それからもう一つは、文教社の「考えてみよう」というところがあります。この中で、答えが出てしまっているのではというのは、すぐそばに書いてあるということですか。

○教科書選定研究委員会委員（古家） 申しわけございません。今、場所を特定することができないのですが、すぐに答えが見えてしまうところがございます。

○澤委員 そうなっているのは、あまりよろしくないですね。

○教科書選定研究委員会委員（古家） はい。

○澤委員 こうやって見させていただくと、どの教科書も、先生が言われるように、本当にきれいで、こういう教科書でなら自分も、もう少し勉強したのではないかという印象です。

○綱川委員長 今回、大きな改訂ないですよ。

○教科書選定研究委員会委員（古家） はい。

○綱川委員長 教科書を全部見まして、今度はこういうふうに変ったところが、保健の中ではありますか。

○教科書選定研究委員会委員（古家） 2社だけですが、学習の振り返りができるということが、これからの子どもたちにとって、課題を持って学習して、自己評価をしていくという点では非常に大切なおところだと思います。それが採用されているのが特徴ではないかと思います。

○綱川委員長 振り返りが2社あるのです。後で見えます。

○小島委員 3・4年の教科書を見ているのですが、3年生、4年生はこれ1冊ですか。

○教科書選定研究委員会委員（古家） はい。

○小島委員 3・4年で何でこんなに少ないのだろうかという感じを受けます。

○教科書選定研究委員会委員（古家） おっしゃるとおりです。

○小島委員 最近、自動車事故などで、脱法ハーブの事件が増えていますけれども、この中にもあるのですか。保健の教科書では飲酒の害が載っていますが、脱法ハーブは載っていますか。

○教科書選定研究委員会委員（古家） 5・6年で、「脱法ハーブ」という言葉を使っていないのですが、薬物乱用の害というのがございます。

○綱川委員長 それでは、保健につきましては、よろしいでしょうか。

（異議なし）

○綱川委員長 それでは、続きまして、国語について、篠原先生、よろしく願いいたします。

○教科書選定研究委員会委員（篠原） おはようございます。国語の説明をいたします。担当の高輪台小学校長篠原敦子でございます。よろしく願いいたします。

国語科は、国語と書写の2種類がございます。

初めに、国語の説明をいたします。

まず、内容の選択についてです。各教科書会社とも、各領域がバランスよく配置されております。教科書会社ごとの特色といたしましては、言語事項に関する内容に各種の特色が見られました。

まず初めに、東京書籍ですが、言葉の力という、単元ごとにつけたい力が明確にわかるようになっています。活用例もあり、他教科での活用の仕方が示されておりました。また、学校図書では、単元と単元との間に、漢字の部屋、言葉の決まり、言葉のいずみというような欄があつて、言語事項について負担なく、系統性をもって学習できるようになっています。

三省堂では、別冊もありまして、1年生は巻末ですけれども、学びを広げるという別冊に言語事項をまとめております。

教育出版では、単元と単元との間に、漢字の広場、言葉、文化という小単元があり、言葉を大切に扱える内容になっています。

光村では、伝統的言語文化に関して、季節ごとに学習し、季節感を感じ取れるように工夫されていきました。漢字の広場はイラストを基に文章を書くようになっております。また、巻末付録に発表や文章でも使える言葉を言葉の宝箱という形で載せてありました。どの教科書も指導しやすく工夫されていると思います。

次に、構成、分量です。

東京書籍は、国語の学習の進め方が巻頭に見開きの観音開きのページで示されています。これに、年間を通して学習する単元名、教材名、言葉の力が提示されていて、系統的に学習を進められる構成になっています。

また、手引きに「つながる」というのがあり、前学年でどのように学習してきたかを思い出せるようになっており、それを踏まえて学年の指導ができるという、学年の系統性を考えた指導に役立つと思います。

学校図書では、「国語の鍵」という単元のまとめがあります。資料編と単元ごとにそれぞれおしまいに載っているのですが、国語科でどんな力をつければいいのかという基礎的事項がわかりやすくなっています。

説明文には「読むレッスン」という短い説明文が配置されており、指導はそれで読み方を練習してから本文に取り組むようになっています。

三省堂では、巻頭に何々学年で学習すること、それから2年生以上の巻末には、「覚えておきましょう」のまとめがあつて、学年ごとの学習のポイントを示してあります。それぞれの学習の振り返りに活用できると思います。

教育出版では、各題材の初めに、身につけさせたい力が明記されていてわかりやすいです。また、各単元の終わりに「ここが大事」というまとめが示されており、身につけさせたい内容が明記されています。国語を初めて指導する教員にとっては、何を指導すればよいかということが、これによって明確にわかると思います。

光村では、学習の進め方を順に図式化してあります。これにより、児童が目当てを持ちやすいです。

また、具体的な書き方を示し、例を挙げて説明をしているので、学習の中で活用しやすいと思います。巻末の「学習を広げよう」では、学習した内容や本の紹介が載せられていて、それぞれの学

習の復習や読書へ発展させることができる構成になっています。発展学習に活用ができると考えられます。

次に、表記・表現についてです。

東京書籍は、「ノートのとおり方」というところが、鉛筆書きのような表記になっていて、見やすく親しみが持てます。

学校図書は、入門期の学習部分がページを見つけやすいように、動物のイラストつきのインデックスがついています。数字を習っていない1年生の初めの時期にとって、この動物のインデックスは大変効果的に使えますし、動物の絵は親しみがあっていいと思います。

三省堂は、説明文に写真や内容を補足する図表や資料がたくさん使用されていて、内容の理解に役立つ、活用できると思います。

教育出版では、児童の作文例や「漢字学習ノート」のページには、鉛筆書きのような表記になっていて親しみやすいです。

光村では、単元の目当てが題名の前に書かれているので、指導者にとっても児童にとっても、何を学習させるのかが明確につかめます。また、挿絵や図表の分量がほどよく、効果的に使い分けています。古典教材のページの写真が増え、視覚的にも捉えやすいと思います。

最後に、使用上の便宜、その他です。

東京書籍では、作文を書いたら家族に読んで感想をもらおう等の指示が教科書に載っています。保護者の参加を促す内容が盛り込まれていて、学習への参加につなげることができると思います。

学校図書では、「文化の違いをまとめよう」という単元があり、港区で推進している国際文化の理解に役立つと思います。また、この学校図書にも巻末に、「保護者の方へ」という欄が設けられておりました。

三省堂は、2年生から「小学生の国語」（本編）と「学びを広げる」（資料発展）の2冊の分冊になっています。2冊を効果的に活用するためには、教科特性を指導者がよく理解していないと難しいかなと思います。

教育出版では、6年生の「学校案内パンフレットを作ろう」という教材があって、これは、アカデミー内の交流に生かせる単元だと思います。

光村では、「季節の言葉」という小単元があり、季語が学べ、港区で取り組んでいる俳句づくりに大変役立つと考えます。また、巻末には、漢字学習のところにチェック欄があって、漢字検定に向けた自習に役立つと思います。

以上で、国語の説明を終わります。

○**綱川委員長** ただいまのご説明に対して、ご質問等ございますでしょうか。

○**教育長** それぞれの教科書でその単元のまとめが置かれていたり、そういう工夫はそれぞれ特徴があるのでしょうけれども、私、国語の教科書で大事だと思うのは、例えば、作品、お話とか小説とか、短歌でもそうですけれど、どういう作品を取り上げているかということで、すごく有名な、誰でも知って、あるいは知っていなければいけないようなものが、載っていたり、あるいはそうで

なかったり、いろいろだと思うのですけれど、教科書会社でそういうものの何か特徴、取り上げる作品についての、特徴などはあるのでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（篠原） 今回の改訂では、それほど大きく教材が変わっている教科書はなかったと思います。作家さんの関係だとかそういうところで、どの教科書にも使われている、昔からの、例えば「大造じいさんとガン」みたいな教材もありますし、それぞれの教科書会社に特色ある教材が配当されていると思います。

やはり前回の教科書と今回を比べると、指導しにくいなと思った、そういう教材は抜けて、新しい教材が変わっているということが見られました。

○教育長 ありがとうございます。

○澤委員 いろいろまとめていただいてありがとうございます。私は技術屋なので、国語というのは名作を読んだり、その感想を書かせたり言わせたりということももちろん大事ですが、一方、自分で報告書を書くとか、それからグラフだとか、そういったものを、読み解くということも大切と思っています。そういう視点から見ると、多分、ほかの教科書にもあるのだらうと思うのですが、東書は、3番の表記・表現のイのところ、グラフや表を利用した教材もあり、他教科につながるという、そういう特徴を、報告していただいています、これは多かれ少なかれほかの教科書にもあるのでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（篠原） はい、それは入っています。

○澤委員 現在、光村の教科書を使っておりますけれども、その光村について、先生方のまとめについて、これをどういうふうに解釈したらいいのかということで質問します。例えば、内容の選択というところで、文学的な文章、説明文については、前回の内容と余り変わらないとあります。単元の配置もそのままのものが多いいのは、これは進歩がないという意味なのか、今のがよいので、それは変わっていないよということなのか、どっちにとった方がいいのでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（篠原） 他の教科書会社は、前の教科書が全てそろっていないので、前と今とを比べることができていないのですが、光村に関しては、もう私たちはわかっていますので。前回と余り変わっていないということなのです。

単元の配置もものによっては少し後ろに動いたりとか、変わっているものもあるのですが、大きくは変わっていないということで、内容的には光村に載っている内容も大変吟味されたい教材が多いので、特に、マイナスという、そういう意味ではないです。

○澤委員 進歩がないなということはないですね。わかりました。次は、構成、分量のイのところに、読んだ後、書かせる方法をとるなど書く内容が多い、というのは、これはどういう意味ととった方がいいですか。

○教科書選定研究委員会委員（篠原） 読みの教材に関しても、後で書かせるというような、やはり書くということに対する内容が全体的に多くなっているということです。

逆に、今、表現するということがとても大事なので、自分の意見を書いたりすることが多くなっているということは大切なことかなと思います。

○澤委員 わかりました。あと一点ですけれども、表記・表現のところで、“巻頭の「〇年生の学習を見渡そう」のページは縦書きと横書きが混在している”と書いてあるのですが、これは混在しているのでわかりにくいということなのか、これはどういう意味ですか。

○教科書選定研究委員会委員（篠原） ページを見ていただくとわかるのですが、流れは横書きで、いわゆるカード的な形になって縦にこう並んでいる、でも、ほかの単元名は縦書きで書いてあるんですね。ですから、それがこう見やすいと思う方もいれば、縦書きと横書きがこう一緒になって見にくいと思う方もいるということです。ですから、客観的にこういうふうにつくってあるということで、ここには書かせていただきました。

○澤委員 なるほど。それは、見る人によって、結果の感想は違うけれど、事実としてそういうふうになっていると、そういうことなのですね。はい、ありがとうございます。それから、5年生、6年生が2分冊になっているのと、1冊というのがありますが、これは、使う先生方からするとどっちでもいいよということなのですか。

○教科書選定研究委員会委員（篠原） これは、それぞれのよさと悪さがあると思います。1冊になるとやっぱり重い、だから、子どもが毎日持ってくるには大変です。

ただ、1冊になっていると、上巻で習ったことをちょっと見返すときに、同じ教科書ですので、前の学習を活用しやすいという利点もあります。

○澤委員 なるほど。一長一短ということですね。

○教科書選定研究委員会委員（篠原） はい。両方にあると思います。

○綱川委員長 大きな改訂がないはずですが、その中で、今回、全部見られて特色があれば、先ほど、ちらっとおっしゃっていましたが、特段別はないですか。

○教科書選定研究委員会委員（篠原） 私は、それぞれ各社とも、前回の教科書よりも工夫されてきていると思います。

○綱川委員長 わかりました。では、国語については、この辺でよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教科書選定研究委員会委員（篠原） では、書写の説明をいたします。

初めに、内容の選択です。

東京書籍では、毛筆は見開きで簡潔に示され、筆使いの軌跡を確かめやすい表記がされています。学習したことを硬筆に生かす、「硬筆に広げよう」という設定がされており、毛筆と硬筆を結びつけて学習できるようになっています。

学校図書でも、毛筆を学習した後の「硬筆に生かそう」があり、手紙、ちらし、ポスターづくりなど充実した内容になっています。学んだことが生活の場で生かせるように工夫されていると思います。また、低学年はできたらシールを貼る、また楽しくふり返りができるよう工夫が見られました。

三省堂は、硬筆はていねいに解説されていて分かりやすいです。6年生では、場面にふさわしい書く速さを意識することが強調されています。速さとていねいさを指導者がきちんと指導していく

ことが求められると思います。

教育出版では、学習する前に試し書きを書き込む欄が設けられています。また、各内容で子どもに課題を投げかけ、学習の目当てを焦点化しています。「ここが大切」という欄で、学習のポイントをもとめていたり、「国語で生かす」、「学級活動で生かす」など、具体的に活用の場をイメージした「トライアンドチャレンジ」というページが教育出版には設けられておりました。

光村では、学習する前に、試し書きを書き込む欄が設けられています。また、大切なポイントを自分で書き込む欄が設けられているので、意識化しやすいと思いました。学習内容ごとに解説の欄で学習のポイントをもとめてもあります。また、国語の単元と連動して学習できる内容や構成になっています。

日本文教出版、以下、日文と読ませていただきます。日文は、1年生から全ての学年に「もっと書こう」というページが設けられており、自己紹介、説明文、報告文、紹介文、意見文、随筆など文章を書く内容が扱われています。やや国語的な内容になっているようにも見えます。

構成、分量です。

東京書籍は、中学年以上で、毛筆を学習した後に硬筆に生かすという流れでわかりやすく構成されています。

学校図書は、「硬筆に生かそう」ということが多く設けられており、こちらも毛筆を学習した後に学んだことを硬筆に生かせる構成になっています。

三省堂は、硬筆で課題をつかみ、毛筆で確かめ、さらに硬筆に生かすという流れになっています。高学年でも硬筆の活用が重点に置かれているため、毛筆で書く分量が、やや配置が少ないかなと思います。

教育出版では、2年生の最後の「はってん」に毛筆が紹介されています。3年生から始まる毛筆の学習への意欲を持たせることができるようになっていました。

光村では、高学年で巻頭に「学習の見通しを持とう」というページを設けてあり、1年間の学習がこれによって見通せるようになっていました。

日文では、「なるほど書写教室」というページが各学年に設けられていて、それまでの毛筆学習で学んだことを硬筆に生かす構成になっています。

表記・表現です。

東京書籍では、手本のページの左端に関連するページが示されており、必要に応じて参照することができます。児童が自分で既習事項を確かめるのに便利だと思います。

学校図書では、手本が見開きの縦置きにすることにより原寸大で示されており、文字の大きさや形、配列は、手本としてはわかりやすいと思います。

三省堂では、基本的な点画の書き方について、穂先の向きや腕の動かし方、筆圧などについて細かく説明されています。

教育出版では、文字の組み立てや筆順による特徴などを、色や数字、表記を工夫して示されており、子どもにとってもわかりやすいと思います。筆記具の持ち方については、教科書の裏表紙にも写

真とポイントが掲載されており、すぐに確認できるようになっています。

光村では、「ななめほさきちゃん」とか、動物のキャラクターを用いて、穂先の向きや運筆について、大変わかりやすく説明してあります。低・中学年では、書くときの姿勢や鉛筆の持ち方について、写真や絵だけでなく、唱え歌等もわかりやすく説明しております。教員の中にはなかなかこういうことを知らない教員も多いので、指導に役に立つと思います。

日文では、用具の扱いや書くときの姿勢、筆記具の持ち方について、巻頭に写真でわかりやすく示されています。特に、毛筆の入門期である3年生では、この用具の扱い方が大変ていねいに説明されていました。しかし、使われている絵の中に人権上、問題があると思われるものがありました。

使用上の便宜、その他です。

東京書籍は、教科書の横幅が今までのものより3センチメートルほど広がっています。開くとちょうど6センチ、今までより長くなるということで、机の大きさが変わらないため、習字用具等を置いたときに教科書の幅が広がることによって、子どもたちの机の上の使い方工夫が必要になってくるかと思っています。

学校図書は、巻頭の「毛筆学習の進め方」で、学習の進め方や「かご書き」、「ほね書き」などの手法を紹介し、練習用紙の作り方についてわかりやすく示されていました。児童が主体的に学習を進めることができると思います。

三省堂は、巻頭に書写に関するところが紹介されていました。

教育出版は、巻頭の「学習の進め方」で、「学習の進め方」について書いてあるため、児童が主体的に学習を進めることができると思います。また、児童相互の学び合いを意識づけているところが多く見られました。

光村は、「もっと知りたい」、で、発展的な内容を取り上げたり、「資料」として身近な生活に生かすことができる情報を取り上げています。情報量が多いと思います。他教科の学習や生活に生かすことができる、そういう内容も豊富でした。

日文は、巻頭の「学習の進め方」で、学習の進め方がわかりやすくなっています。これは、児童が主体的に学習を進めることができると思います。

以上です。

○**綱川委員長** この件につきまして、ご質問ございますでしょうか。

○**小島委員** 光村の内容の選択の1番、アの1番で、学習する前に試し書きを書き込む欄が設けられているというのですが、試し書きをするということは、役に立つというか、どういういい点があるのですか。

○**教科書選定研究委員会委員（篠原）** まず実際に、自分で書いてみて、それを手本と比べることによって、自分の課題をつかませることができると思います。また、今までこう思っていたことが実際には違ったという気づきにつなげていく、そういう学習につなげることができると思っております。

○**小島委員** 試し書き、それ自体がなかなかおもしろい発想ですね。

○澤委員 日文の表記・表現で、ウのところでは挿絵に配慮の欠けている絵があるというのは具体的にはどういうことですか。

○教科書選定研究委員会委員（篠原） 漫画的などころで、人権に係るかなと思います。耳がなかったり、手が全部丸くなっている、指がないのですね。配慮が欠けているのではないかなと思いました。

○澤委員 次に、内容の選択のところ、幾つかの教科書で、カタカナを毛筆で書く内容は扱われていないというのがあるのですが、これは、何か問題があると考えなのか、まあ、これは扱われなくてもいいよというのか、どうなのですか。

○教科書選定研究委員会委員（篠原） 私は、特に問題はないと思います。扱った文言を、何を選択しているかということなのかなと思いました。

○綱川委員長 ほかにいいですか。私から質問ですけれども、光村のところの内容の選択のウのところ、国語の単元と連動してと書いてあります。私たちが学んでいたときは国語の中に習字の時間が入っていて、一体だったわけです。ほかのところは、こういうふうには書いてないので、その辺の特徴というのはどうですか。国語と書写の連携というのは、こういうふうになったほうがやりやすいのですか。

○教科書選定研究委員会委員（篠原） 指導者としてはやはりやりやすいと思います。

ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。

（異議なし）

○綱川委員長 では、ありがとうございました。

○教科書選定研究委員会委員（篠原） ありがとうございました。

○綱川委員長 それでは、社会の説明を、よろしく願いいたします。

○教科書選定研究委員会委員（松浦） 社会の担当をいたしております、御成門小学校長松浦でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

社会科の教科書は、4社でございます。社会科という教科は、国語や算数などと違い、教科書で学習をするというより、教科書で学習の仕方を学び、いろいろな調べ方で調べて学んでいく、そういう教科でございますので、選択の観点としましては、問題解決型の学習ができるかどうかで選定のための調査研究をいたしました。

本日は、5年の上の教科書だけ持ってまいりましたけれども、ご覧のように1社だけ通年で、これは光村ですけれども、5・6年生は1冊になっています。ほかの教科書会社は全部上・下の2冊に分けております。

ついでに申し上げますと、この光村図書が一番文字数が少なく、写真や図が多く、教科書に隙間も多くあり、書き込みができたりするなどの特徴がございます。

反対に文字が多くて資料が多いのが、日本文教出版です。これ、教科書を主に学習をするという場合にはいいかもしれません。東書と教育出版につきましては、それぞれ量的には中量と、そんなふうになっています。

4社とも、先ほど申し上げましたように、問題解決型の学習ができるようなつくりになっています。少し、お話をさせていただきますと、最初の東京書籍につきましては、つかむ、調べる、まとめる、生かすというふうに、学習の段階がそれぞれに提示されています。各單元ごとに具体的な学び方が例示されているという意味ではとても使いやすい教科書だろうというふうに考えています。

教育出版につきましても、つかむ、調べる、まとめる、深めるという項目で構成されています。小単元の末尾に振り返りのページも用意されています。

光村図書につきましては、見つける、調べる、話し合う、まとめる、広げる、ホップ・ステップ・ジャンプというような分け方で、やはり学び方が例示されております。

文教出版につきましても、クエスチョンマークを使って、問いのたびということで、学習問題を提示して、それぞれ学習の方法が提示されております。

内容的なことを申し上げますと、どの教科書も当然、学習指導要領に基づいておりますので、取り上げ方に、若干違うところがあるのですが、内容的には余り大きな違いはございません。

教科書の使いやすさについてですが、東京書籍は、それぞれの單元ごとにどういう学びをするのか、まとめや、振り返りがあり、非常に使いやすい教科書になっているというふうに思います。

教育出版につきましても、丁寧につくられておりますので、しっかりと学習を進めることができる教科書になっています。

光村図書につきましては、隙間が多く、資料も、写真の資料ですとか、多くなっていますので、活用をしていきますと、なかなかおもしろい授業になっていくだろうと思います。

日文につきましては、いろいろな資料、文字資料もとても多く、情報はたくさんございます。これはやはりしっかりと教科書を丁寧に扱っていくという上ではいいと思います。

ただ、港区の実態と申しますか、若手の教員が多く、それから社会科に余り精通していない人たちが多いという実態を考え、研究委員の中ではやはり東書か教育出版が良いのではという意見が出ておりました。

以上でございます。

○綱川委員長 ご質問等ございますでしょうか。

○小島委員 光村は空間が多いというようなことで、逆に言うと、それはうまく活用していけば非常におもしろい教科書だというようなお話なんです、そうすると、余程社会科に明るいというか、通曉した先生でないとなかなか難しいのかなというふうにも聞きましたが、そんな感じはあるのですか。

○教科書選定研究委員会委員（松浦） そのように思います。

○小島委員 わかりました。社会科の場合は、この内容の選択のアのところ、それぞれ、つかむ、調べる、まとめる、いかすとか、深めるとか、話し合うとかいろいろ取り上げ方があるのですか。これは、社会科という科目の特徴ですか。

○教科書選定研究委員会委員（松浦） そうですね。ただ、どの教科でも問題解決型の学習というのはございますので、そういう意味ではやはり似たような段階は踏んでいます。学習の課題として

理解をして、それについて自分で解決をしたり、調べたり、自分で考えたり。それを意見としてまとめて発表したり、その発表を交換しながらまた学び合っていくと、そんな学習課程です。

○小島委員 それは、社会科の特徴としてそういうことは言えるわけですか。

○教科書選定研究委員会委員（松浦） 社会科だけではありません。ただ、社会科は調べるということは必ず入ってまいります。調べたものはまとめていきますので、その部分は社会科の特徴と言えると思います。

○澤委員 （４）の使用上の便宜、その他ということで、アとして区の実態に応じて活用したい特色とあります。東書は、そういう視点から特徴があるのではないかというような書き方がされていますが、港区という、そういう視点に立ったときに、子どもたちの目から見ると興味を持ってもらえる内容となっている、そういうことですか。

○教科書選定研究委員会委員（松浦） というようにとっていただいてもいいと思います。やはり港区の子どもたちが学習するので、例えば、ごみ処理などは関西地方のごみ処理を教科書に載せているよりは東京のごみ処理を載せていただいているほうが、子どもたちにとっては学習しやすい、そういう類いのことです。

○小島委員 小学校の社会では、政治組織とか人権とか、その辺については、ある程度基本的なものは教えているのだらうと思うのですが。

○教科書選定研究委員会委員（松浦） ６年生で学習いたします。

○小島委員 このコメントを見ると、人権関係というものについての表記に対する評価が、選定の資料に見当たらないのですが、各社どんな雰囲気の人権とかそういうものを捉えているのでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（松浦） 雰囲気というと、どうお答えしていいか悩むのですが、基本的には日本国憲法からそれぞれの権利ですとか、基本的人権も含めまして記述があります。それは、各社が工夫した形で子どもたちが学習しやすく、６年の教科書ですと６年の下巻に、視覚的にわかりやすく示しています。

○教育長 ６年の下で、市役所とか、そういうところの仕事があつて、各社それぞれ見ると、世田谷区あるいは足立区を、取り上げているところ、それから川口市、もあるのですけれど、この辺の市と区との違いは、港区ですから、区役所も、本当は港区役所が、取り上げられるといいのですが、そうもいかないわけで、市と例えば区と、取り上げる題材でいうと、その教え方というのは多少こう違いがあるのですか。

○教科書選定研究委員会委員（松浦） 例示でございますので、港区では３年生から社会科を学習する中で、区役所の学習もしています。６年生が政治の単元を学習する際にも、やはり身近なところということで、教科書の例示をベースにして、実際に、港区ではどうしているのだらうという学びをしていくのが通常でございます。

そういったことを通して政治の仕組みや、実際の政治の動きが具体的にどうなっているのかを、具体的に学んだほうが理解はしやすいですから、そういった形で学習は進めているはずですよ。

○教育長 そうすると、先ほど冒頭に言われたように、社会科というのは、その教科書を出発点として、調べたり、そういう学習をしていくということですから、まあ、それが一つの題材となるということですね。

○教科書選定研究委員会委員（松浦）教科書で取り上げている地区と港区の特徴的な違いというものを学習する、認識するという意味では教科書に取り上げられている事例を学習することも大事だろうと思います。

○綱川委員長 自分が小学生の頃、社会というのは副読本が重要だと思っていて、教科書よりは副読本で興味が湧くものがあつたのですが、港区では副読本として、都のものだったり区のものだったりあると思うのですが、それはまた別になるわけですね。

○教科書選定研究委員会委員（松浦） そうです。

○綱川委員長 領土問題の件では、検定が終わってから、途中で何か変わっていきることがあるのですけれど、この4社について特徴的なものはありますか。

○綱川委員長 表記の問題ですね。

○教科書選定研究委員会委員（松浦）どの教科書も、5年のはじめの方に載っています。例えば、東京書籍の5年の上の9ページには領土をめぐる問題ということで解説がございます。それぞれの教科書に、領土につきましては記述がございます。

○教科書選定研究委員会委員（松浦）それぞれ、北方領土ですとか具体的に書いているところですが、それぞれ書き方は、若干違いますけど、内容的にはそう違いはございません。

○綱川委員長 竹島の問題が途中から変わっているということが、新聞などに書いてあつたりしていたのですけれども、その辺は教育に対して影響というのは大丈夫ですね。

○教科書選定研究委員会委員（松浦）特に問題はないと思います。

教科書にはきちんと書いてございますので。

○綱川委員長 ほかにございますか。よろしいでしょうか。

続きまして、地図についてよろしくお願ひします。

○教科書選定研究委員会委員（松浦） よろしくお願ひをいたします。地図は2社ございます。東京書籍と帝国書院でございます。

見ていただいてお分かりのように、東京書籍のほうが大きくなっています。帝国書院がずっと変わらないといひますか、昔よりは少し広がっていますけれど、こういった形です。

内容の選択、分量の構成のところをお話させていただきます。

内容の選択につきましては、地図ですので、両社とも大体、南から北へずうっと表わされています。そこは同じですね。特徴的なのは、東京書籍のほうは、ある、例えば、京都とか奈良ですとか、そういったところをかなり詳しく載せている、それから東京もそうですけれども、詳しく載せています。

資料につきましては、それぞれ、両社ともきちんと載せられていますので、余り大きな違いはないかなと考えています。分量でいひますと、94ページと、86ページ、大きな違いはございませ

ん。日本のことに関しましては、双方とも50ページを使っています。資料が若干、東京書籍のほうが多くなっているかなという感じです。

ただ、これは配色がどうかという、問題といたしますか、同じところを見ていただいたのですが、東京書籍が40ページ、帝国書院が35、6ページです。見ていただいておわかりのように、これは好き好きです、はっきり言いますと、どちらが見やすいかということです。

○小島委員 それは帝国書院でしょう。

○教科書選定研究委員会委員(松浦) 4年前ははっきり言って帝国のほうがずっとよかったです、東書が随分よくなりました。だんだん近づいてきたということですね。資料は何を載せるかというのは編集方針ですので、こうやって統計資料というのが表になっているというのは大事なことはありますけれども、実際には、資料といたしますのはいろんなところから引っ張ってこられますので、そう大きな重きを置かなくてもいいのかなと思います。

ただ、それぞれ両社とも工夫してイラストを載せながら説明をしたり学習、そのページではどんなところに注目したらいいのかというようなことを吹き出しで表示したりしています。

以上でございます。

○綱川委員長 ご質問等ございますか。

○小島委員 配色は好みだとは言うものの、帝国書院がいいのかなということは、選定資料には書いていないのですが、東京書籍は、今回、大きくなったということですか、大きくなったことの影響というのは、子どもたちにとってどうなんですか。大きくなったことはいいことなのか。

○教科書選定研究委員会委員(松浦) 無責任な言い方で申しわけありませんが、余り意味がないと思います。

○小島委員 ただ、ものすごく大きくなったり、ものすごく分厚くなったりしたのでは問題ですが、ある程度大きくなるということは、それだけ内容が豊富になるということですから。

○教科書選定研究委員会委員(松浦) 帝国書院は教科書と同じです。東京書籍は教科書より大きいので、それがどうか。A4版です。

○小島委員 以前、よく教科書選定のときに量が多過ぎて、子どもたちが、ランドセルに入れるのに、ほかの教科書の関係があるのでどうなんだろうと言われました。

○綱川委員長 ランドセルに入るA4サイズに大体統一してきたということです。

○澤委員 帝国書院の形よりも、東京書籍の形のほうがいいなという感じがします。確かに、帝国書院はかつてはよかったですけれども、今回、3番の表記で比較しますと、イのところで、東書も土地の高低をあらわす色の濃淡がはっきりしていて、一目で高低が判別できる。帝国書院も配色が見やすい、高低差もわかるということで、紙の質が、東京書籍と帝国書院では少し違いますけれども、そういう意味での差というのは余りないということでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員(松浦) そういうことなんです。山、高低が見やすいということでは、両方見やすいですね。

○**綱川委員長** 地図というのは、小学校、また中学校でもあるのですけれども、結構貴重な資料として使える場合が多いので、そういう意味ではいいものを選定してあげたいと思いますけれども、帝国書院の東京については、江戸との比較や鳥瞰図も載せているというところ、このあたりは大きな特徴ということですね。

○**教科書選定研究委員会委員（松浦）** 両方とも東京につきましては、東京書籍、43ページですが、見開きにして大きく取り上げています。

東京については、帝国書院が江戸との比較を載せているということです。それはもう特徴といえますか、それぞれ編集方針があつてということです。

○**綱川委員長** そういう意味では、なかなか、どちらを選ぶかというのはなかなか難しいです。社会の教科書との兼ね合いという点で、地図はどのぐらい、関連はそれほど、ないですか、出版社ごとによって。

○**教科書選定研究委員会委員（松浦）** 当然、東京書籍は教科書を意識してます。帝国書院は本当に、いろいろ地図をつくってきた会社ですので、地図ということできっかりとつくられていますので、活用がしにくいということはありません。どちらでも、要するに、使い方によってということになりますので。

○**綱川委員長** はい、わかりました。

○**小島委員** 付録というか、資料については、かつては、帝国書院は資料がびしっとできてたという評価があつたように記憶しているのですが。

○**教科書選定研究委員会委員（松浦）** 例えば、帝国書院の71、2ページを開けていただきますと、日本の世界との結びつきということで、いろいろな資料がここでコンパクトにまとめられています。

一方、東京書籍では、73、74ページのまとめ方やあらわし方が、帝国書院の71、72ページが対応しているかと思えます。ここが、山ですとか、川ですとか、島ですとか、それから気温ですとか、そういったことが載っていますけれども、それぞれがやはり工夫して資料をまとめているということです。

○**綱川委員長** それでは、地図についてはよろしいでしょうか。

○**綱川委員長** 松浦先生、ありがとうございました。

○**教科書選定研究委員会委員（松浦）** どうもありがとうございました。よろしくお願いたします。

○**綱川委員長** それでは、続きまして、算数の説明を黒田校長お願いたします。

○**教科書選定研究委員会委員（黒田）** それでは、算数の教科書の説明をさせていただきます。

算数は6社でございます。6社全体に言えることは、教科書が随分変わったなという印象があります。思考力、表現力の育成ということが、やはり算数でも問われておまして、考えさせる問題解決型の展開になっていることです。また、表現力の育成ということで図を使って考えよう。テープ図、線分図、数直線に発展するそれらの図を使って考えようというようなものが随分あります。

それから、6年生の教科書になりますと、やはり中学校を意識した算数から数学へのつながりというようなページが随分あるというふうに、感じております。そんな観点から説明をさせていただ

きます。

まず、(1)の内容の選択というところです。

東京書籍、東書です。どの教科書にも巻頭には使い方が示されており、子どもたちがそれを見て使えるようになっているのが特徴です。

また、巻末には、その学年で学習した単元と、用語、公式など、考えなどがまとまっているのが特徴に感じました。

また、定規、分度器などの使い方がとても丁寧を示されており、道具の使い方が特徴になっております。

続きまして、大日本図書です。大日本図書は、実は、1年生から6年生まで1冊ずつという特徴がある教科書です。これは初めてではないかと思えます。

そんな中で、演算決定力、式を読む力、図で表す力、情報選択能力などを身につけるためのページ、「算数たまたまばこ」などがあるのが特徴だと考えます。

また、図形の導入では、身近な生活で使用しているもの、建築物等、実際に知っているものの写真を多く使っており、興味・関心を持たせやすくなっております。

学図、学校図書にまいます。キャラクターによる吹き出しでヒントが示されており、子どもたちが愛着を持つページが多いと見られます。

また、色分けが効果的であり、字のフォントなども効果的です。大きい、小さいがありますが、6年生の文字のフォントは、逆に言えば、少し小さく感じてもおります。

それから、4つ目の教出、教育出版でございます。教育出版では、レイアウトの中で例題を示すページが幾つかある中で、黒板の前で子どもたちが説明をするような場面が多く書かれており、手本となるような図が多いというふうに思います。

ただ、港区はだんだん電子黒板等が出ておりまして、黒板だけではない時代も来ますので、全部がいいというわけではありません。

それから、各学年の随所随所に「算数ワールド」というページが配置してありまして、いろいろな興味・関心を引き、活用ができる、教わる内容以外のところのページも出ております。

続きまして、啓林館です。啓林館は、教科書の使い方、学習の進め方など教科書を活用してほしいという思いが随分出ております。

また、「算数アスレチック」として、単元の導入においては、既習事項を振り返られるようにしてあります。何年生のここで習ったというのが随分わかりやすく出ているというふうに思います。

テープ図、線分図、数直線の書き方も明確になっております。

日文、日本文教出版ですけれども、実は、これは近畿地方の情報が、やはり今も多く残っております。少し偏りがあって、関東地方の情報ではないものも多いなというふうに思います。

ただ、ここに記しましたように、6年では、はやぶさ号が出てきたり、あるいは6年生の折れ線グラフなどでは最新の情報が入っていたり、あるいは果物でもキウイやマンゴーなどの新しい情報が入っていたりしております。

続きまして、(2)の構成・分量に移ります。

東京書籍ですが、練習問題では、力をつける問題と仕上げを行うことで単元全体の振り返りをしているのが特徴です。また、練習問題の分量が適切な量で散らばられているというふうな思いで見えておりました。

それから、学習する単元に対して、前の学年や次の学年につながる見通しが持てる目次になっております。また、6年生のみ1冊になっております。

次に、大日本です。大日本は、自力解決を促すような構成になっているのが特徴だと思います。どの教科書も自力解決ができるようになってきていますが、大日本は特に、自力解決を促すような構成になっていると思います。

また、4領域、「数と計算」、それから「量と測定」、それから「図形」、そして「数量関係」という4領域のバランスがよく配置された単元配列だというふうに思います。

次に学校図書ですけれども、巻頭に算数でよく使う考え方、いわゆる数学的な考え方とよく言われますが、その考え方の学習内容を記載してあり、わかりやすくなっていると思います。

また、単元の最初には、学習の準備というページがあって、やはりここでも既習事項の振り返りができるような紹介が出ています。

また、1単位時間の学習の最後には、「確かめよう」、「補充の問題」というふうに出ていますが、量は余り多くないと感じました。

続きまして、教育出版です。教育出版では、単元の初めに、「どんな学習が始まるかな」というコーナーで既習事項を捉えております。

また、各学年に「算数ワールド」というものがありまして、例えば、6年生では、「パスカルの三角形」を取り上げたり、また、3年生では、「まほうじん」などを取り上げたりして、児童の興味・関心をひくページがありました。

問題に対して考え方のヒントだけを提示している形をとっていて、ここでも考えさせることを大切にしていることを感じました。

続きまして、啓林館でございます。啓林館は、冒頭に述べましたが、学習の進め方が、問題解決型の問題を提示しています。児童が目当てを持って見通しを持ち、そして自力解決をして、その後、全員で話し合いをして、確かめ、振り返りという問題解決型の構成になっております。ほとんどなっているとと言っても過言ではないと思います。

また、毎時間の構成では、復習準備、それから主問題、練習適用問題など問題数は豊富適量であると考えます。

「たしかめましょう」というところの評価問題では、つまづく児童のために、「ふりカエル」というコーナーで反復練習を通して基礎基本の定着が図れるようになっております。

続きまして、日文ですけれども、ここでも既習事項のふりかえりを大切にしております。そして、活用する学習として、「いち・に・算活」というのが8割方の単元にあって、進んで活動に取り組むようになっており、そのようなことが特徴でございます。

(3) の表記・表現にまいります。

東書ですがイのほうでは、用語、記号、公式等の大切な部分は太くなっていたり、色字体になっていたりと、重要さが伝わってくるページがあります。全体的に色や写真が多く使われており、見やすい感じがいたします。

続きまして、大日本ですけれども、ここでもテープ図から数直線までの段階を触れております。乗法・除法においては、4年生から数直線の表示があり、とてもよいと感じました。

1時間の学習のねらいが、色つきの帯にしてあり、児童が、1時間の学習で何をするのかが理解しやすくなっています。算数的な用語においては、赤線で囲むなど注目しやすくなっております。

続きまして、学校図書ですけれども、特徴としては、やはり色別に分けていることや、振り返りを巻末にできるようにしていることです。

「わり算の筆算」では、ここはよくつまずくところなのですが、計算の仕方が大変丁寧に示されており、ページも多く割いていると思います。

教育出版では、全学年に児童の言葉による発表やまとめが書かれており、用語や数式の説明もわかりやすくなっております。

また、イの数式はすっきりとしていて見やすく、必要に応じて児童のつぶやきが捉えられており、工夫されていると感じました。

あと、テープ図、線分図、数直線の書き方の説明が入っております。

啓林館ですが、色使いやデザインがとても柔らかくなっています。そして筆算の練習のところでは、筆算の手順を理解しやすく書いてあります。キャラクターの吹き出しの適切なヒントが書かれていて、既習事項を意識させています。

数式の説明においては、4年生のわり算の筆算のところでは、紙面を使い丁寧に解説しております。

続きまして、日文ですけれども、補足説明がページの右側についていて、自力解決のヒントになります。しかし、ともすると細か過ぎて、場所によっては教師用の手引きで教師が読むような内容が入っているものもあると感じました。

それから、各上巻には、学習の手引きとして、特別な紙、とてもいい紙で、1枚後ろのほうについていて、これを引き離して使うのでしょが、なかなか児童に意識させて使用させるには難しいというふうに感じました。

続いて(4)にまいります。

(4) 使用上の便宜・その他。区の実態に応じて活用したい特色ということでは、東書では、少人数指導の上コースの児童に補充問題が行える構成になっております。この補充問題は、少しひねられた問題で、そして答えもついておりますので、答えを見ながら勉強できるという形になっております。

また、イの4年生以降の下巻では、「おもしろ旅行」などがあり、「ガウス」、「曾呂利新左衛門」の紹介、「俵積み算」などを用いて算数のおもしろさを伝えているのが目に入りました。

大日本では、「数学の世界6年生」ということでは、中学校の数学につながる内容となって興味深

い問題になっています。

また、単元に入る前には、「算数の学び方」のページがあって、学習の進め方として、何回か出ております7段階の進め方が出ており、話し合いの観点も書かれています。

学図ですけれども、学図は、5、6年は1冊ずつになっています。6年下に別冊で「中学校への架け橋」というのがついております。ただ、ともすると、別冊ですので、やはりないがしろになるのかなという思いもしました。6年までの教科書の内容をやるのでせいっぱいなので、むしろ教科書の最後についてるのが、いいと思いました。

それから、思考力・表現力を育てるために、「ノート名人になろう」というページがあって、ノートの書き方の中で自分の考えの表し方が例示されています。

教育出版ですが、単元のまとめの問題で、生活や中学校に広がる話題を入れてあり、小中一貫や港区算数部の研究内容にもつながるところもあると考えました。

イでは、「学びの手引き」として、3、4年生の段階から「順序よく考える」とか、「にた場合と比べて考える」とか、「決まりを見つける」、など幾つかの数学的な考え方がわかりやすい言葉で出ているのが特徴です。

続きまして、啓林館ですが、「学びをいかそう」ということで、既習事項を活用した問題が掲載されており、習熟度別少人数指導を考慮してあります。

また、6年生の巻末に、小中一貫を意識してか、「中学校で学ぶ「数学」の簡単なしょうかい」ということで正の数・負の数だとか連立方程式だとかが紹介されております。

また、巻末の充実として、6年のまとめで「算数卒業研究」というのが出ておまして、算数的な活動例、また算数・数学を学ぶ意義について考えさせる題材となっております。

最後、日文ですけれども、教科書サイズが日文は大判です。1社だけ大判でございます。その大判のことですが、確かにいろいろ乗せたり、あてたりはできる反面、机の面積を随分とってしまうんじゃないかなという思いもあります。

巻末の付録が実際に使いやすいサイズでもあると思います。ただ、切り取らせるのには難しいものもあると感じております。

以上、表で説明させていただきました。

以上でございます。

○綱川委員長 ご質問等ございましたら。

○澤委員 今、啓林館の教科書を使っております。そうすると、今回新たに選び直すということですけれども、現状、啓林館の教科書を使っていて、問題点とかいい点とか、それが例えば啓林館の場合だと、今回はその問題点が解決されていたとか、そういう現状の問題点という視点で見ると、ほかの教科書は、工夫されているとか、何かそういう視点はありますか。

○教科書選定研究委員会委員（黒田） まず、啓林館の特徴をお話ししますと、小学校1年生、2年生で10の数のブロックが出てくるのですが、それは啓林館のみです。今までも、今度もそうだと思うのですが、5個ずつで10としています。ほかの会社は、5を超しても、ブロックを10まで

続けておいています。将来、縦になって繰り上がりがある足し算だとか筆算のときに10を並べますので、それが大切なのですが、啓林館のみは5でやってきています。

ただ、その方法で、見やすいよさや、5の分解とかは誰でもわかりやすいよさもあるなと思います。

それから、4年生の面積に入ったときに、正方形と長方形を勉強した後の四角形の面積のときに、どの5社も平行四辺形から面積に入るのですが、啓林館だけは三角形から入ります。これは長年続いています。平行四辺形から入るところは長方形に等積変形をしたり、あるいは倍積変形をしたりして考えるのですけれども、三角形から入ることは、どの四角形も三角形に分割すればできるじゃないかというスタンスでやるのが特徴だと思います。

それから、今回見ていて、啓林館の教科書では、ちょっと早いなと思われた単元が後に回ったとか、努力が見られて、変わったな、よくなったなという思いはしています。

現状で、やはり啓林館の流れを1、2年生、3、4年生勉強してますので、その現状の流れというのもきっと大切なんだろうなと思います。ただ、やはり東書だとか教育出版とかも、すごく子どものためには考えているところもあるので、一社だけとはいえません。

○澤委員 私も特に算数や理科に興味があるので見させていただいています。今、大学生にもなって分数の計算ができないという話があります。それは、小学校で出てくるわけですね。そうすると、分数の計算、足し算など、加減・乗除の教え方で、各教科書で工夫しているものがありますか。

○教科書選定研究委員会委員(黒田) 分数はまず、学習指導要領ではもう2年生から入ってきます。2年生から2分の1とか4分の1とかは入ってきまして、要するに分数自体が、分母と分子の数があって難しい数であり、生活上余り出てこないものですので、何度も繰り返し触れさせようというのがねらいです。教科書の工夫のことですが、ちょっと分数だけ見てきていなくて申しわけありませんが、まず、掛け算の式の決まりとか割り算の決まりを使って分数わる分数をていねいに説明してあります。いわゆる私たちのころは、ひっくり返して掛け算すればいいんだよと習ったものを、なぜひっくり返してやるのがいいのかというのを、割り算のきまりで、両方とも同じ数を掛けて10倍すれば答えが同じだということを使って分母をなくす工夫をしています。そういうような工夫は徐々にやられていると感じます。

○澤委員 いずれにしても、算数というのは、だんだん5年生、6年生ぐらいになると、好きな子と、なかなかついてこれない子と差が出てくる危険性がある教科です。我々は別段、今までのことを引きずる必要はありませんけれども、教科書を使う子どもから見れば、3年生まではこの教科書だったのに、4年生になったら、何かがらっと変わるというようなそういう捉え方もあり得るということで、そういう面も考える必要があります。

○教育長 教科書には説明の記述があって、練習問題がありますね。先生の補足的な説明を当然前提としていなければ、解けない練習問題があります。これは多分、先生の授業を聞いてやらないと、解けないだろうなという教科書があるように思います。自力解決型の教科書だけ読めば、きちんと

教科書を追っていけば練習問題も解けるといふ、そういうつくりの教科書もあるように感じたのですが、その辺は、授業と教科書と相まってやらないとできないものと、教科書だけ見れば、家庭学習だけでもそれなりにできるという、ちょっと特色あるような気がしましたが、いかがでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（黒田） そのとおりだと思います。例えば東京書籍の補充の問題がそうなのですが、一番巻末についている補充の問題で答えを見て学習するというのですが、基礎基本の問題で解けるといふのもあるのですが、さらに発展して、もう少しそれを使って考えさせたい、すぐ終わる子には、もう少し上の問題をさせたり、わからない子には反復練習させたりしています。それから基礎基本の練習問題をさせたいというふうな、今習熟度別少人数学習で算数が多く行われておりますので、そういったコース的にも別になる子たちも、コースで分けなくてクラスでやらないといけないケースも多いので、そのような工夫になってきているのかなと考えます。

○小島委員 教育長の質問と関連するのですが、算数という科目は、やはり進みぐあい、理解度、習熟度が一番分かれる科目だと思います。子どもたちが、習熟度が進んでいる子もおくれている子も、等しくそれに応じて学力がアップするようにするためには、やはり、その習熟度別を考えながら、いろいろな基礎基本を徹底する問題と、さらに発展的な問題と意識的に分けて、それぞれができるような問題がかなり豊富に意識的に取り入れられることが大事だと思うのです。そういう観点でいくと、先ほどのご説明で、啓林館の（４）の使用上のところのＡで、習熟度別少人数教育を考慮するというのそういう意味ですね。習熟度別少人数指導を考慮しているというふうに書かれているのですが、そういう意味では、今言ったような意味でのクラスの子どもたちが、それぞれの立場でレベルアップできるような、そういうような意識がなされているのでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（黒田） この書き方もいいかわからないのですが、一番左の観点に、区の実態に応じて活用したい特色についてというのがありましたので、私あるいは他の委員とでの書き方としては、既習事項がわからないと、先に進んでいないというのは、例えば、掛け算九九の暗唱が５年生、６年生でもわからない子は、もう計算領域は何をやってもわからないので、九九に戻ります。九九がわからないと、小数の割り算・掛け算、小数点が十進構造で入ってくる中でもやはり九九なのです。そういった子たちにも少し対応できる、先生もそれに対応できるということで、この書き方になったところです。

○小島委員 それぞれの子どもたちに対応するためには、いろいろな問題が豊富に、なおかつ、港区の子どもたちは平均して算数の能力は高いと思うので、そうすると、そういう能力の高い子どもたちをさらに伸ばしてあげることが大事だし、やはり基礎基本がおくれているなという子どもたちの学力もアップしてあげなくてははいけない。そういう観点からすると、この少人数を意識した問題というのは、大変良いと思っているのですが。

習熟度別少人数としてということだと、啓林館と東書ですね。習熟度別に配慮したことは大変いいと思います。

○澤委員 小島委員が言われているように、算数も興味を持ってもらうということが大事です。そういう視点から見ると、教育出版では単元のまとめの問題で生活や中学校に広がる話題を入れてあ

り、特徴的なことですね。中学校に広がるというのは、先ほどの6年生の最後のほうに、中学でどんなものを数学として学ぶかというのはほかにもありましたけども、教出では、この中に入っている広がる算数といったようなことも含めているのですか。

○教科書選定研究委員会委員（黒田） 1単元1単元の最後のまとめのところに、そういうのが出ていると思います。

○澤委員 これがちょっとおもしろいですね。

○小島委員 先ほど社会科のときに話が出たのですが、港区は現在、若い先生が多いという話がありました。教科書を扱う能力としてはどうですか。

○教科書選定研究委員会委員（黒田） 難しいことです。要するに、考えさせたり、子どもに説明をさせるとか、それから、その子どもの考え方をもう一人の友だちに言わせるとか二人の考えを結びつけるとか、そういう検討、まとめの授業を望ましいというふう考えたときに、やはり教科書の問題をどんどんやって、正解か不正解か言って、あまり検討やまとめ、話し合い活動をしないというような先生も多々いるとは思いますが。ただ、教科書のもとでやっていけば、進んでいってしまうというような現状もあると思います。

○綱川委員長 よろしいでしょうか。黒田先生ありがとうございました。

それでは、ここで委員会を一時休憩させていただきます。

再開は、1時20分にさせていただきますと思います。よろしくお願いいたします。

（休憩）

○綱川委員長 引き続き委員会を再開いたします。

○教育次長 教育委員会事務局の説明員ですが、人事案件のときの非公開の例に倣いまして、私と庶務課長と指導室長が同席させていただきますが、その他の課長は自席待機とさせていただきます。何かございましたら、お呼びできる体制にしておりますので、よろしくお願いいたします。

○綱川委員長 今ご報告のあったように3名の説明員ということでよろしくお願いいたします。

それでは、理科について、高橋先生よろしくお願いいたします。

○教科書選定研究委員会委員（高橋） それでは、理科の説明をさせていただきます。担当の白金小学校長高橋でございます。よろしくお願いいたします。

まず、私のほうは、研究の観点ごとに、横並びで教科書会社ごとに説明をさせていただきます。

その前に、一つ申し上げておきたいことがございます。

理科という教科は、教員の得手不得手が比較的大きい教科でございます。そのため理科が得意でない教員にとっても、逆に専門的に理科をよく研究している教員にとっても、使いやすいという視点をまず第一に考えて研究を進めさせていただきました。

それでは、具体的な内容に入ります。

まず、内容の選択の部分でございます。

東京書籍ですけれども、器具の安全な使い方について巻末に掲載されています。

大日本は、暮らし、科学技術関連づけ、中学校へのつながりが見通せる内容になっています。さ

らに、身近な素材を用いた簡易な工夫した方法を取り上げているということがございます。

この中で、科学技術との関連につきましても、なかなか一般の先生たちが活用することは、そう簡単にはできないなというところはあると思いますが、子どもに意識づけをするという意味では非常に有効であると考えております。

続いて、学校図書ですが、5年生の初めの単元が振り子になっております。実は、これがちょっと問題がございまして、何かというと、振り子の学習では、平均値を使うのですけれども、その中で算数で5年生の内容に平均が入ってきています。ということは、ここが最初の単元であると、平均の学習をせずに、この振り子の学習に入る可能性があるということになります。

教育出版でございます。単元の導入ページは、学習のつながりとして、既習や未習の単元をそれぞれ示しているということで、これはとてもいいことなのですが、ただ、教科書は限界があるので幾つも示せませんので、未習の学習の単元を示しているということは、逆にいうと、既習単元の内容が十分に触れられていないことがあるということでございます。

啓林館ですけれども、この教科書だけ別冊が入っております。この別冊で、生活経験や既習事項を振り返ることができるということ、それから導入の段階に使えるというところがございます。

啓林館については、5年生の初めの単元が種子の発芽になっております。これは、この東京という地域性を考えたときに、4月の初めの段階での発芽の実験は、比較的時間がかかってしまうということがありまして、すぐに芽が出てこない場合があります。そうすると、子どもたちが芽が出るまで少し待たなくてはならないということで、意識づけの問題、意欲などの点では、ちょっとこの単元の構成はいかがかなというところがございます。

続いて、構成・分量についてでございますけれども、問題解決というプロセスを理科でもたどっているところですが、そのやり方とか示し方が各教科書会社で少しずつ違ってしております。

まず、東京書籍ですけれども、問題解決の過程について、不思議をつかむ、不思議を解き明かす、学習を振り返ると、3つぐらいの大枠で示しております。ほかの教科書会社は、もう少し細かく分類をしています。どちらがいいかということとは言えないわけですが、ただ、問題解決のプロセスをたどるっていう場合に、全く知らない子どもたちが問題解決をやっていくときには、できるだけ細かく最初は指導してあげたほうが丁寧である。得意な先生であれば、それを細かくやっていくことができるはずですが、やはり、まだ経験の少ない先生であると、どうしてもそのとおりに流してしまう可能性があって、そのあたりは、できれば最初の段階、少なくとも3、4年生ぐらいの段階では、問題解決のプロセスを追いながら、丁寧に指導したほうがいいのではないかなと考えられます。

続いて、大日本ですけれども、大日本の場合は、予想には根拠となるヒントが示されています。意外とこの予想するというのが子どもたちにとっては難しく、なかなか予想できない子どもが多いのですが、これはある程度そのヒントが示されているということで、予想できない子どもたちにとっては適切な対応ではないかと思えます。

学校図書ですけれども、問題解決の過程を「学びのナビゲーション」という言い方で、言葉とか

図表を活用しながら掲載しているということで、これは非常に問題解決のプロセスをたどりやすい教科書ではないかなと思っております。

教育出版については、この部分では、ほかの教科書会社から特質するようなことはございませんけれども、ただ、発展学習については余り触れられていないということで、これも考え方のよしあしなのですが、発展学習に余り影響を受けると、そこばかり時間をかけてしまって、ほかの単元にいけないということもあるので、逆にぱっさり切るということも必要な場合もあるということです。

それから、啓林館ですが、啓林館は、実社会や他教科との関連を紹介している部分が多くございます。さらには、ものづくり広場が4年生以上についていて、理科でいうと、他教科、生活との関連とか、それから、ものづくりとかいうのは意外と重視されている部分なので、その点ではこの教科書はよい教科書だということが言えると思います。

続きまして、表記・表現でございます。

東京書籍は、非常に教科書として見やすい教科書でございます。発色も非常に自然に近い色合いが出ていて、子どもにとってもとても興味深く見られる教科書だと思っております。

大日本については、安全のための配慮という部分が、細かく丁寧に書いてあるのですが、細かく丁寧であるために目立たない問題もあって、そここのところを意識して先生が指導をきちんとできれば問題はないわけなのですが、そうでない場合には、ちょっと見過ごしてしまう危険性もあるということなんです。

学校図書については、図表を多用してまして、それは学習効果を高める上で非常に効果的だと思います。巻末には、見開きのページで実験器具と扱い方が丁寧に紹介されております。

学校図書の特徴ですけど、図表が比較的に見やすく効果的に使われているのではないかなと思っています。

教育出版ですが、観察実験の結果と考察が記載されていて、観察実験をしなくてもわかるということですか、ほとんどの教科書会社は大体内容がわかるように書いてありますが、教育出版は比較的しっかりと結果が書いてある部分がありまして、そうすると実験しなくても教科書だけで勉強が終わることも可能なわけでございます。

あともう一つは、この教科書会社の特徴として、実験結果を直接教科書に書き込めるようになっています。これについても、いろんな考え方があるのですが、例えば時間短縮のために表ができていて、そこに書き込む方式にすれば、授業でその時間をとる必要はないのですが、ただ、トレーニングを積むという意味で、図表を自分でつくって、そこに書き込んでいくみたいなことを考えているのであれば、逆にこれは使いづらいものになるということでございます。

啓林館ですが、啓林館は子どもの記録が豊富に示されています。子どもの言葉で書いているので、それを子どもたちが見て理解しやすいのではないかなと思っております。

最後に、使用上の部分でございますけれども、これについては東京書籍については、実は3年生の導入の段階で春の生き物というところがあるのですが、この例示が少ないというところがあります。理科は3年生から入ってくるので、この部分が豊富でいろいろなものに触れられると、子ども

が最初やる気を出せるのかなと考えております。

大日本ですけれども、3年生の植物教材ですが、ヒマワリとホウセンカの2つの比較から入っています。実は、3年生の理科についてはキーワードがありまして、「比較」というキーワードで、3年生の多くの単元がそれで構成されていますが、比較と考えたときに、ヒマワリとホウセンカを比較するという考え方です。いろんなものを幾つも比べるというのは、多分3年生には難しく、その2つの比較というのが適切というか、ある意味、学習指導要領の趣旨に合っているような単元の作り方になっているということでございます。

学校図書、教育出版は特に目立ったところはありません。

啓林館ですけれども、啓林館の場合は、大涌谷とか生命の星・地球博物館の記載があります。これは、6年生が移動教室で比較的行くことの多い場所になりますので、そういう意味では、これが載っていることで子どもは興味を示すということも考えられます。

全体的にこれらの教科書を見たときに感じることで、東京書籍は、問題解決のやり方が、先ほど申しましたけれども、大きくまとめて書いてあるので、中学年のうちはちょっと難しいかなというところもございます。ただ、全体的にはオーソドックスな教科書ではございます。

大日本は、バランスが非常にとれた教科書で、非常に抜き出でいいところもないんですけども、非常に悪いところもないというか、誰でもがどちらかという使いやすい教科書であることは間違いないです。

学校図書については、先ほど申しました5年生の振り子に代表されるように、単元構成に一部使いづらさが出てきているということでございます。

教育出版については、シンプルによくまとめられている教科書だと思います。ただ、先ほど言いましたが、一部ちょっと書き込みをしなくてはいけないような部分があって、これは評価の分かれるところかなと思います。

最後に、啓林館でございます。啓林館は、現在使用している教科書会社でございます。これは、教科書自体としてのではなかなかいいので、研究委員の先生たちがちょっと課題だなと思ったところは、修正が加えられている部分があるというお話を伺いました。ただ、先ほど申しましたけれども、5年生の部分、発芽の部分については、このままになっているということ。

それから、もう一つ、この別冊化されているというところが、今回変わったのですが、この別冊について評価が非常に分かれたところがございます。

別冊については、まず、この別冊の内容を見ていただくとわかるのですが、学習の初めと終わりあたりに使うのが適切な使い方かなという感じがします。例えば、学習の最初に使ったときに、その学習の導入の仕方がかなり制限を加えられてしまう可能性があるということで、ベテランの先生たちにとっては、これを使ってやるとすると使いづらいただろうと。それから、まとめの部分については、誰が使っても比較的使いやすいということがあるかなと思います。

それから、普通の理科が得意でない先生は、別冊を使ってまた教科書に戻ってというのは、これは決して使いやすいやり方ではないと思います。

それから、内容的なものとはちょっと関係ないのですが、これが離れるようになってくるということが、例えば忘れ物で子どもが怒られたりとか、なくして怒られたりとか、そういうリスクが出てくると、このあたりもいかなものだろうかという意見が幾つか出されたところでございます。

私からは以上です。

○綱川委員長 ご質問等ございますでしょうか。

では私から。今使っている教科書について、私が教育委員をさせていただくようになる前に選定の過程があって、その後、使用する先生から、訂正事項が多かった、それも勝手に直して持ってきて、誰も把握してなかったとかそういうのがあったのですが、今はそういうのは全部解消されていますか。

○教科書選定研究委員会委員（高橋） その部分については、解消されていると研究員の先生たちはおっしゃっていました。

理科については特徴的な教科書のつくり方をしていた部分があるのと、単元構成などで幾つか問題点というか、関東では余り合わないような植物の例示とかそういうものがありました。今は随分解消されてきています。

○綱川委員長 学力調査等で理科については、若干低いというような状態の中で、教師の指導力の問題があるかもしれないのですが、その点でこの4社の中で、使いやすいとか、ベテランでないと思えないのではないかとか、そういう話はあったのですけれど、特色あるものがありますか。

○教科書選定研究委員会委員（高橋） 理科で多分最も重要とされるのは、問題解決のプロセスをきちんと子どもが踏めるかということになると思うのですが、その中では細かくステップに分けて指導を行えるというところは、教育出版が非常に細かいですね。

例えば、最初、やってみようで、これは問題提起の部分に当たるのですが、疑問に思うのは何だろうかということをやって、それから予想を立てて、その予想で調べる計画を立てて調べて、調べた結果が出てきて、そこから考えようとか、非常に細かいステップ。大日本もそれに近いですね。

学校図書と啓林館は、どちらかというところオーソドックスな、普通の、大体パターンとしては問題把握、観察、実験、結果、考察というのが大体のパターンですが、そういう感じになっています。

それに対して、東京書籍の場合は、3つぐらいの大きなパターン、3つぐらいのくりに分けて少し大枠でやっています。それもやり方としてはあるのです。つまり、問題解決をパターン化しないという考え方もあり、でも、それが小学生に向いているかどうかというのは、ちょっとまた別な問題だと思えます。

○澤委員 今のお話を聞くと、単元の構成ですけれども、5年生の初めは天気の変化というのが一番無難だという、そういうことですかね。

○教科書選定研究委員会委員（高橋） 天気の変化にしなくてもいいのですが、ただ、振り子にしたり、それから発芽にしたり、その最初に持ってきたところに問題があるということです。

○澤委員 それで、私もこの東京書籍が結構いいなと思うのですが、ただ、一つ気に入らないところがあって、目次がはっきりしない。要するに物の性質、物の働き、生命、地球という大枠で分け

ているのは、すごくわかりやすいのですが、ページの順に並んでる目次があるのかというと、それはなくて、物の性質の中の1番のところの物の燃え方と空気は12ページですとある。だから、全体を見たときに、どういう順に並んでいるのかわからない。東京書籍の目次というのは、確認したいのですが、どうですか。

○教科書選定研究委員会委員（高橋） たしか一番後ろに目次がありませんか。

○澤委員 ああ、これですね。

○教科書選定研究委員会委員（高橋） それが目次になっています。ただ、裏側なので余り見ないので。

○澤委員 今使っているのは啓林館ですけども、今のお話でいくと、ちょっと問題がありそうな印象を受けたんですけども。

ただ、ここに書いてある実社会や他教科との関連をかなり重きを置いてというのは、私も見ました。理科の広場とか、それから未来へひろがる日本の技術とか、それから算数との関係というようなことで、「算数のまど」というコーナーもあって、そういう意味では、なかなかおもしろいなという印象があります。ただ、今の先生のお話だと、幾つか指導上では、あるいは教科書のつくりぐあいとしては、理科はいろいろ問題があるような印象を受けました。

それから、確認なのですが、教育出版の構成・分量のところ、発展がないという、お話をされていましたね。

○教科書選定研究委員会委員（高橋） 発展的な内容が余り触れられていないということです。

○小島委員 大日本の表記・表現の安全のところですが、先ほども先生がおっしゃっていましたが、目立たないということで、その注意の仕方がわからない表現があるというのですが、理科の実験で注意の仕方がわからないと、大変なことになるので、これ結構、問題ですよ。

○教科書選定研究委員会委員（高橋） この注意の仕方がわからないというのは、何でそれをやってはいけないのかという説明がきちんと記載されてない部分がところどころにあるのです。そうすると、子どもは何でそれをやっちゃいけないのかというのが疑問に思っ、通常であれば、先生が説明すればわかるのですが、説明できない先生もきつといます。

○綱川委員長 私から。先ほど先生の指導力とか、子どもたちが理科離れとか、何かそういう特徴が今年度は変わっていますか。

○教科書選定研究委員会委員（高橋） 最も変わった部分として、先ほど言いましたが、啓林館のその別冊がついたということと、あと大日本が、今まで上下巻だったのが1冊になりました。全ての教科書会社が啓林の別冊を除けば全て1冊になったということです。

ただ、1つだけちょっと気になる部分があつて、それは教育出版の5年生と6年生の教科書の表紙ですが、5年生はブランコにスカートの女の子が乗っているという表紙で、6年生は、水着の子どもがいるという表紙で、ちょうど高学年で多感な男の子の時期だと、ちょっとこれは気になるかなと。表紙にわざわざ使わなくてもいいのではないかなという、そういう意見は出てきました。

○綱川委員長 わかりました。参考になると思います。

○小島委員 啓林館の別冊ですが、これは従前の啓林館の本体に入っていたものを分けたのですか。それとも、全く新しい観点からこの別冊というのをつくったのですか。

○教科書選定研究委員会委員（高橋） 若干、前の教科書の中にあつたような分もあるのですが、最初と最後に使うことを意識して、新たに構成し直したと考えられたほうが良いと思います。

○小島委員 その狙いは何でしたか。

○教科書選定研究委員会委員（高橋） 多分最初の導入のときに、それを使って子どもに興味を沸かせて、最後の授業の最後のところでその授業を整理して次へ発展させるという意図があるのだと思います。

○小島委員 それは学年のということですか。

○教科書選定研究委員会委員（高橋） いえ、単元です。

○網川委員長 よろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、生活説明をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○教科書選定研究委員会委員（篠崎） 生活科の説明をいたします。どうぞよろしく願いいたします。担当の東町の篠崎厚子でございます。

生活科では自分の周りの環境とのかかわりを学んでいきます。その中で重視していることは、気づき、体験の充実、表現活動、この3つを、大事な点にしています。

内容の選択についてです。

東書です。山や商店や畑などさまざまな地区の内容が盛り込まれています。それから、他教科との関連が巻末の便利手帳にまとめられています。理科や社会につながります。

大日本図書です。町の様子を学ぶ単元では、町探検の地図づくりを中心に取り扱い、町全体の様子がわかるようなあらし方、場所や人だけに着目するのではなく、町の音やにおい、例えば、パン屋さんの前を通れば、パン屋さんのパンの焼けるにおいなどの観点にも着目した表記になっています。気づく視点を広げさせてくれています。

地域とのかかわりを持たせながら学習のまとめをしています。町内の掲示板、なかなか子どもが気がつかないところまで書き込みがしてあります。

学図です。野菜づくりの単元では、活動の場が校内菜園を中心に上げられ、港区としては同じようなことしかできませんので、合っていると思いました。

巻末にある生活科学び方図鑑は、上手な話し方、聞き方、手紙の書き方など国語科との関連を意識して作られており、使いやすいと思いました。

教出です。ほかの単元や教科とのかかわりが、で示されておりまして、わかりやすいです。活動の中に、種の気持ちになってお話をくったり、動作化を入れたり国語科との関連が図られた表記となりました。

信教はなしです。

光村についてです。町の様子が写真よりもイラストやカットで示されているものが多ございました。写真がもう少しあつたほうが良いと思いました。

ワークシートの完成例の完成したものの例の記載が多いため、書き方の例や書くときのポイントが少なく、子どもたちが作成するときに戸惑うことがあるのではないかと思います。

啓林館です。町全体の様子を把握するよりも、人や場所にポイントを当てている活動が多うございました。それから、町の様子が定点観測してありますので、季節の移り変わりに気づきやすい内容になっていました。

野菜づくりが一つのまとまりになっていまして、種まき、発芽、開花、表現、活動の一つの流れとして示されておりますので、子どもが学習していくときに見通しを立てやすい内容になっていきます。

日文についてです。町探検では、「町のすてきなところ」という言葉を出して、すてきなところ、あなたが、私がすてきなところに着目する構成になっています。例えば、信号機の例なども出ていました。人や場所には限定していませんでした。これも探検の視点の広がりと思われました。

次に、構成と分量についてです。

まず、東書です。小1プロブレムを意識して、スタートカリキュラムが内容充実していました。それから、町探検が、どきどきわくわく町探検ともっと仲良く町探検の2期に分かれていまして、1年間通して町について学ぶことができるようになっていました。

児童が書いたワークシートが至るところに掲載されておりまして、活動のまとまりに生かすことができますし、子どもの書いたワークシートですので、自分でもこのくらい書けるという気持ちにさせてくれます。

単元の終わりには、紙芝居や新聞など表現活動の例示が表記されていました。発表のヒントにもなります。

大日本です。おもちゃづくりの単元では、2年生が1年生に教える展開例になっています。相手意識を持たせることにより、見通しを持って活動する内容になっていました。教えるということで学習の意欲づけになります。

家族との生活については、いくつかの単元に組み込まれていました。さまざまな家族の形態がある状況の中では、さりげなく学べると思いました。

学図です。ものしりノートとして写真や人が載せてあり、児童が教科書を活動の資料や図鑑として活用できます。観察カードの記入の仕方も書いてありました。

目次が大きな字で書かれていますので、わかりやすいです。そして、学図は本が縦に少々長いです。ちょっと気持ち、情報量が多くて興味を引く内容になっていますが、実際使うとなりますと、机の上にはちょっと大きいと思われました。色鉛筆を置いたり、筆箱を置いたりいろいろ置きますので。

教出です。野菜の扱いが大きく、いろいろな種類の野菜の栽培例が掲載されていました。いろいろな種類の例があるということは、教師の指導のヒントにもなります。児童にとって身近なトンボ、ザリガニ、ダンゴムシを取り上げているとともに、いろいろな虫の成長過程が記されています。理科につながると思いました。

おもちゃの単元では、動きからではなく、材料から動きを推測するようになっています。どんな動きをするのかなということで、輪ゴム、そこから入っています。

光村です。ホップ・ステップ・ジャンプで単元の中での展開の仕方がわかるようになっています。児童の手書きのカードの例示が多く掲載されていて、これもよい点だと思います。

啓林館です。季節単元は、定点観測を意識しておりまして、季節がわかりやすく活動のヒントになる資料を教科書の巻末にまとめて表記しており、分量が多いと思いました。

単元ごとに4つのステップ、「わくわく」「いきいき」「つたえあおう」「ちゃれんじ」で構成され、児童の思考の流れが明確に示されていました。

活動のヒント集が、啓林館だけ、別冊として小さい付録のようなものがついておりました。課外活動の際に、資料として子どもが持ち歩き学ぶこともできますし、ちょっと時間があるからこれを眺めようという気にもなるような本です。ただし、これを学習時間の中で使いこなせるかどうかの疑問がありました。

日文です。季節の移り変わりが同じイラストで大きく載っていて、注目しやすく移り変わりを捉えやすいと思いました。

3番目、表記・表現についてです。

東京書籍です。紹介されている町の写真が、山、川、住宅などさまざまな要素を含むものを使用しておりますので、学校の周りの環境に左右されず使用することができます。ただし、この大都会の港区のような景色ではありません。

動くおもちゃの作品例が数多く紹介されていました。子どもの活動意欲にもつながります。そして、先生の指導のヒントにもつながると思いました。

単元例が具体的で、例えば、夏だ、遊ぼうというように、活動の見通しが子どもが持ちやすいです。

大日本です。さまざまな雰囲気イラストが載っていて楽しく感じました。それから、言葉による説明を省いて、写真やイラストなどで活動をあらわしているのもわかりやすいと思いました。

教科書の右上に、子どもたちがどんな学習をするのか指しており、活動の見通しが子どもに持ちやすく、吹き出しを活用していて、いろいろな視点から活動を提示し、記憶的に活動できるような工夫がされていました。

学図です。実際に児童が楽しそうに活動している写真が多いので、児童が学習に興味・関心を持ちやすいと思いました。

また、児童が実際に活動している様子や予想される児童の疑問が書かれており、児童が興味を持ちやすく、自主的にその解決をしたくなるような工夫がされています。

単元名、小単元名ともに短く端的に示されているということです。単元名、例えば、わたしのアサガオ、小単元名、種まきをしよう、種まきの準備、種まき、よくわかるようになっている。

教出です。観察カードの形式が上下巻を通して全てほとんど同じ形式になっていました。本当は、子どもたちにいろいろな形のカードのまとめ方を学ばせたいと思いました。

振り返りや発展、おうちでチャレンジ、単元終わりに興味を持続させるヒントを掲載する工夫がされていました。

図画です。写真よりイラストが多ございました。写真がもう少し欲しいという意見も出ました。

啓林館です。イラストが優しいイメージで統一性があって印象がよい。それから、児童が生き生きとした表情の写真が多く、楽しいという感じがします。

都会で飼える小動物の写真を拡大して掲載しているので、実際の活動のときに、これに注目して学習できます。

日文です。各ページ、鮮明な写真とイラストが盛り込まれていると思いました。

最後に、使用上の便宜・その他についてです。

東書です。1年時には、バッタ、モルモットを大きく取り上げ、2年時には、ヤゴ、ダンゴムシ、アゲハなど数種類取り上げられていることが、港区の実態にも対応していると思いました。

大日本です。資料の中で世界の文化や言葉に触れており、国際化での活用が考えられます。

学図です。せかいのあそびというところは、国際化と関連させることができ、国際色豊かな港区では活用したいと思います。

教出です。飼育しやすいザリガニ、ヤゴ、ダンゴムシなどの生き物と、都会では飼育しにくいカナヘビ、チャボ、アルヒなど多くの生き物が掲載されていました。

それから、デジタルカメラや自動カメラの使い方や安全や環境、参考図書などの記載が大きく扱われていました。

光村です。生き物の取り扱い、港区の実態に合っていました。

啓林館です。飼育する生物の主教材としてバッタを取り扱っていました。

日文です。日本の伝統文化、地方の郷土料理などが紹介されていました。それから昔遊びです。展示や環境、安全に関するページが下巻に多く掲載されていました。

どの出版社も生物教材については、港区で育てられるものが、観察の飼育例をとってありました。

以上です。

○綱川委員長 ただいまの説明に対して、ご質問はございますでしょうか。

○澤委員 篠崎先生のお話を聞いていると、現在は大日本を使っているのですけれども、個人的には、学校図書もなかなかいいのかなと思います。

ただ、ちょっと気になったのは、一回り大判ですね。子どもたちの机の広さから少し問題があると言われていましたが、現実的に、あの大きさだと難しいということですか。

○教科書選定研究委員会委員（篠崎） 乗せれば使えるのですけれども、子どもはこれを使って教科書も広げます。観察カードも先生からもらいます。筆箱もあります。そして、カードを書くには色鉛筆も使いますので机の上がぐちゃぐちゃになって、すぐ学習に取りかかりたいといったときには、やはりできるだけ小型のほうが使いやすいです。子どもが使いやすい。それから、やはり小さな手ですから、少しでも小さいほうが好ましいです。

○澤委員 それから、もう一つ、啓林館で、別冊があってこれが使いこなせるかどうかということ

がどうかなってというお話ありました。さっきも理科のところ、別冊というのは、下手すると忘れてきたり、なくしたりして、そういうことが起こりかねないということで、別冊というのは、ないほうがいいのかということですか。篠崎先生の個人的な見解で結構ですが。

○教科書選定研究委員会委員（篠崎） 教師にとりまして、やはり、生活科の本を持ってらっしゃいと言われたときに、これだけ持ってくればいいのかと、もう一つ別冊を持ってきましたかというのと、指導がそこから始まってしまいますので。

もし、どうしても必要なものでしたら、教科書本体の中に組み込まれていたほうがいいですね。

○澤委員 特にまだ1年生ですからね。

○教科書選定研究委員会委員（篠崎） はい、小さい子ですので。

○小島委員 もともと別冊は、例えば、子どもたちが校外学習に行くときに、教科書ではなく、別冊だと便利だとか、そういう狙いがあると思います。公園にみんなで行って観察しますというときに、葉っぱの種類はこうですか、教科書を持っていくのは大変ですが、こういう小さな別冊ですと、子どもたちにとって大変便利である。

○教科書選定研究委員会委員（篠崎） 持ちやすく、そういうフィールドワークのときにはいいのかもしれないのですが、果たして、その内容に書いてあるところまでの学習に到達できるかというところですね。とって生活科が大好き、こういうことが大好きだという子は、きっとそういうのが机の中にあれば、休み時間でもこうやって見て楽しめるのでしょけれども、いろいろ持ち物が多いのです。カード、筆箱、そして、もしそれがあればそれ、なおかつ、書くための画板か台紙ですよ、そんなのを持って、色鉛筆も持ってとなりますと。

○澤委員 改めて、生活の教科書を見させていただいて思いました。今、小1プロブレムということで、幼稚園から、あるいは保育園からぼんと学校へ来て、国語だ、算数だということで、かなりカルチャーショックを受ける子どもの中にはいるでしょうね。そういう中でこの生活は、学校というのはどんなところかとか、子どもたちが小学校生活にうまく入るのを助けるような面もあるのかなと、この教科書を見たときに、そういう印象を持ちました。そういう意味では、学校にうまく溶け込んでもらうために、子どもたちに非常に大事な時間なのですね。

○永山委員 先ほど、別の教科のときに、この絵の手の部分が丸くなっていると指摘したのですが、これは各教科の先生方による意見ということでもいいですか。人権尊重上、イラストが問題です。

○小島委員 生活科が7社と多く出しているというのは、何か意味があるのですか。というのは、生活は、社会と理科につながるの、ですから、1、2年で選択されないと、3、4年でも選択されない可能性があるのでは。

○教科書選定研究委員会委員（篠崎） 申しわけありません、私もよくわかりかねます。だから、ここで例えば、どこの会社で決めても、それが3年、4年で理科、社会になったとき、そこを選ばれるとは限らないということです。

○小島委員 先ほどの話で、生活で一番大事なのは、子どもたちが自分の身の周りの環境をよく理

解することですか。

○教科書選定研究委員会委員（篠崎） 理解の前に気づいてほしいですね。子どもは、何気なく生活しているのです。

○小島委員 それで先生は先ほど気づきと体験活動と言われたのですね。あともう一つ何でしたか。

○教科書選定研究委員会委員（篠崎） 表現です。考えて学んだことをみんなに伝えるには、どういうふうにしたらいいのだろう。その方法です。それが紙芝居であったり、発表であったり、新聞であったり、絵カードであったりするわけです。

○小島委員 わかりました。

○綱川委員長 では、生活についてはこの辺で、篠崎先生、ありがとうございました。

それでは、音楽に移りたいと思います。野村先生お願いいたします。

○教科書選定研究委員会委員（野村） 音楽の説明をいたします。担当の筭小学校の野村です。よろしくお願いいたします。

では、説明させていただきます。

音楽につきましては、教育出版社と教育芸術社ということで2社について、調べさせていただきました。

まず、(1)の内容の選択のところです。主だったところをкаいつまんで説明させていただきます。

(1) イ、日本の曲と外国の曲がバランスよく配置されている、教育出版のほうですが、これは両方が同じような重要さで扱われています。音楽ランドという形で同様な中に、日本の曲と外国の曲が入っております。

それに比べまして、教育芸術社のほうのイになります。日本の歌が学年ごとにまとめられ、わかりやすいとのこと。これは、歌い継ごう日本の歌という形で、日本の歌は日本の歌でひとまとめにして紹介されています。これをもとに考えますと、やや日本の曲を重視しているのかなという感じがしております。

それから、ウ、教育出版社のほうです。音楽家からのメッセージがあり、児童の興味を引き出しやすい。これは4年生の場合ですと、元ちとせさんという方が紹介されていて、その方の生まれた地方、自然や生活の中で曲が生まれていった、また歌っているという、そういうような形で親しみやすく使われています。

それに対しまして、教育芸術社のウですが、ウの2つ目です。巻末の作曲家紹介、ここで4年生、モーツアルトが紹介されているのですが、内容的に、従前のものとは違い、かた苦しいものではなく、親しみやすい、なじみやすい形で紹介されていると判断しております。

2番、(2)構成・分量です。これは教育出版社のアのほうですが、歌唱、器楽の取り上げ方についてですが、曲数、内容とも丁寧に紹介されていると受け取っています。

それに比べまして、教育芸術社のほうは、やや合奏曲が多い。これは楽しく歌う。例えば、二部合唱であったり四部合唱であったりというような形のいろいろな場合に応じて楽しく歌うという点を重視しているのかなと感じております。

それから、イ、児童が考えたリズムや感想を記述できるようになっている。記述できるスペースがとられていて教科書に書き込めるようになっています。

それに対して教育芸術社は、学習の進め方が手際よく示されていると感じました。

ウのほうですが、音楽をあらわす言葉、教育出版社です。巻末にまとめられていて、例えば2年生ですと、音符や休符などが詳しく提示してあってわかりやすいです。

(3) 表記・表現に移ります。

ア、折り込み写真が多く美しい。鍵盤ハーモニカの写真が実寸サイズでわかりやすい。教育出版社のほうで折込写真が非常に大きくて見やすいというのが特徴だと思っております。

例えば、これはお祭りなのですが、見開きだけでなく、さらに観音開きで4ページ、こんなふうになっております。迫力のあるページということになっています。

イのほうに移ります。イのほうにも通じるのですが、見開きのページ、インパクトが強い。

それに対しまして、教育芸術社のほうは、鍵盤奏と歌唱活動と一緒に組み合っていて、合奏、合唱しやすい。つまり、楽器を弾きながら歌いやすい、そんな形になります。

ウに入ります。教育出版社です。楽曲のイメージが広がるよう、楽譜の間に透明シートが効果的に使われている。これちょっと四角なのですが、おもちゃのチャチャチャ、1年生のこの教材なんですけど、これが透明シートがありまして、そこに歌詞が入っていて、イメージを持って歌いやすい。そんな形で工夫がされていると思いました。

最後、4番になります。使用上の便宜・その他のところですが、教育出版です。外国曲の解説がわかりやすく、国際理解教育につなげやすい。5年生で港区の場合、音楽鑑賞教室、サントリーホール、東京交響楽団のところで行いますが、これとちょうど合っているというふうに思います。

教育芸術社は、6年生でオーケストラが使われています。したがって、5年生で体験した後の事後学習として使われやすいです。

それから、イ、教育出版社です。音楽の果たす役割について、きちんと述べられている。これは、音楽の持つ意味と活用の仕方です。例えば、震災の復興のためであったり、地域のお年寄りともたちをつないだり、また地元を愛し大切に育てる態度を培うような内容になっています。

それに対しまして、教育芸術社のほうのイですが、動物のキャラクターが吹き出しで出ていて、大切なポイントが無理なくスムーズに知識が身につくような形でまとめられているというふうに感じました。

以上です。

○綱川委員長 それでは、音楽についてご質問等ございますでしょうか。

○澤委員 私、音楽は苦手ですが、ただ、今の先生の教科書を読んでいただいた結果の報告をお聞きすると、かつて、音楽は教育芸術社というような感じだったので、なかなか甲乙つけがたいという印象を今受けました。その中で、細かな話なのですが、内容の選択のところで、教育出版も教芸も日本の曲と外国の曲がバランスよく取り上げられている。教育出版のほうは、バランスよく配置されている一方、教芸のほうは、学年ごとにまとめられ、わかりやすい

ということでした。これは教える側としては、この学年ごとにまとめられてわかりやすいというほうがいいかなと、そういう印象です。

○教科書選定研究委員会委員（野村） 私自身、音楽の経験がないもので、音楽の専科の教員7名と一緒に取り組んだのですが、おっしゃるとおり、そのような形で2ページの中に3曲が入っておりまして、日本の曲だよということで歌い継ごうということになっております。

○綱川委員長 では私から。この執筆者の欄を見ますと、教育出版のほうは教育者が中心に書かれていて、芸術社のほうは、作曲家がほとんどなのですね。その辺のことで曲の選考とか、掲載している、その辺に関して、学校の実際に使って教えていただく先生にとって、何かそういう話は出てますでしょうか。

○教科書選定研究委員会委員（野村） 具体的に、執筆者を見て、その違いということではないのですが、やや傾向として考えられますのは、教育出版のほうは、教えるべきことがきちっと載っていて、若干、これは教えましょうね、教えなさいよという傾向が強いように感じたと言っております。

それに対して教育芸術社のほうは、割合スムーズに、教科書をこなしていくうちに教えるべきことが身についている、そんな形であるという感想を持っていました。ですから、一長一短だと感じております。

○綱川委員長 でも、音楽を専門に教えている方がそういうふうに感じてくださっているということで参考になると思います。

ほかに。では、よろしいですか。それでは、音楽については、この辺で。野村先生ありがとうございました。

それでは、続きまして、図画工作を廣瀬先生からお願いいたします。

○教科書選定研究委員会委員（廣瀬） それでは、ただいまより図画工作の説明をさせていただきます。担当の青山小学校長の廣瀬です。よろしくお願いいたします。

それでは、観点別に説明をさせていただきます。

まず、内容の選択についてですが、開隆堂については、低・中・高学年ともさまざまな素材をバランスよく取り上げております。同じく、日文も開隆堂と同じようにバランスよくさまざまな素材を取り上げているのが特徴です。

それから、イの参考資料、鑑賞ですが、開隆堂については、「ゆめをかたちに」という教科書のコーナーで、国内の若い作家を紹介しながら、児童作品を掲載することで身近に感じる事がされています。

日文においては、「ぞうけいのもり」というところで発達段階に応じて、子どもが創作する上で参考になる色や形の面白さがイメージさせるような題材がコーナーで取り上げられています。

あと、開隆堂については「小さな美術館」ということで、古今東西の芸術作品を子どもたちの意欲を高めるために掲載されています。あと、開隆堂では、「ひらめきコーナー」というところで発展的な内容や教材の工夫が紹介されております。

日文においては、美術作品、工芸品、自然物、絵本などが、図画工作の広がりというところで取り上げられ、題材としてではなく資料としても活用できるのが特徴でございます。

それから、構成・分量です。

題材の構成の工夫ですが、開隆堂については学習の目標が3つの視点、考える、思いつくや工夫、友達とのかかわりという3つの視点で分類され、マークでわかりやすく示されています。

また、意欲や発想、工夫、鑑賞などの学習指導要領の4観点の評価に対応した振り返りが設定されています。

日文ですが、学習目標の4点が、楽しむ、考える、工夫、見たり感じるということで4つの視点で分類され、こちらも4種類のマークでわかりやすく提示されています。

また、必要に応じて、「きをつけよう」「かたづけ」の欄が絵で記載されており、注意や片づけ方がわかりやすく表示されています。

あと、1、2年上で「できぼこはっけん」というところと、5、6年の「教科書美術館」というところが、系統的に形のおもしろさにつながっておりまして、ここをとっても、6年間の系統を意識した教科書の構成になっているのが特徴です。

それから、作品についての解説ですけれども、これは両方とも児童作品の解説については、児童の言葉で書かれ、また低学年では、吹き出しを使っていて言語活動をしやすいものになっております。

3番の表記・表現です。

アの製作過程、材料用具の扱い方ですが、開隆堂は、それぞれ画材の扱い方、色や形についての「パレットコーナー」、それから道具は「道具箱」に分けられていて説明されています。

日文は、ページごとには製作過程や材料・用具の扱いの表記は余り取り上げられませんが、巻末の6ページで、「使ってみよう、材料と用具」ということでまとめて提示されており、特にこの切り取って使用されるような工夫がされています。

イの説明文等のわかりやすさですけれども、開隆堂の場合は、タイトル下の説明文が子どもたちの想像が広がるように語感や感情に訴えかけられる表現になっております。

日文は、各題材の左ページの下に、使用する用具がイラストで示されていて、児童にとってはわかりやすいということが特徴です。

それから、最後、使用上の便宜・その他ですけれども、開隆堂については、アの区の実態、これについては各巻末の「みんなのギャラリー」で日本各地の伝統文化や作品が紹介され、作品のメッセージや児童、写真からの吹き出しなどで言語での表現を意識づけるような工夫になっております。あとは、巻末の裏表紙のコーナーで伝統文化や工芸、日本の色、形について紹介されています。

日文については、図画工作の広がりというところで、こちらも日本各地の美術館やアーティストを紹介しております。

また、美術館とのつながりや作品を地域に展示するようなかかわり方についても、3、4年生から取り上げられています。

あと、タブレットやデジタルカメラ、ICTを重点的に使った題材だけでなく、それを活用して

いる様子などもさまざまな題材で掲載されております。

5、6年の下の教科書では、中学校との連携が取り上げられています。

最後に、各地の作品展やそれらの学校の展覧会の雰囲気などが写真で例示してあります。

以上です。

○**綱川委員長** ありがとうございます。

ただいまの説明に対して、ご質問等ございますでしょうか。

○**小島委員** 小学校の図画工作の場合は、何か危険なものを使うということはないのですか。

○**教科書選定研究委員会委員（廣瀬）** 上の学年は彫刻刀ですとか、あとは、時に電動ノコギリですとか、特に5、6年になると木を使ったものもありますので、そちらのほうは上の学年になれば、やはりちょっと安全面に配慮する道具というのは使うようになっております。

○**小島委員** 先ほど、道具箱というのがありましたが、安全の観点から教科書で注意書きというか、何かそういうものはあるのでしょうか。

○**教科書選定研究委員会委員（廣瀬）** 開隆堂は「道具箱」というコーナーで使い方と安全、それから日文については、巻末の6ページを使用した「使ってみよう、材料と用具」で、それぞれ使い方と安全についてはまとめて提示がされています。

○**澤委員** 開隆堂、日文、それぞれ特徴があるのですけれども、特に日文の場合に4番のところにいろいろ項目が上がっています。その中にイも含めて下から3番目、ICTを重点的に使った題材だけでなく、タブレットやデジタルカメラを活用している様子がさまざまな題材に掲載されているということですが、例えばどういうところですか。

○**教科書選定研究委員会委員（廣瀬）** そうですね、日文の5、6年上の16、17の「コマコマアニメーション」では、これをカメラの位置を決めて撮影しようというような、デジタルカメラですね、右下に撮影しようですとか、あとは、その次の18、19の「あんなところで、こんなところで」では、やはりお気に入りの角度から写真を撮って残しておくというところで、デジタルカメラの使い方が記載をされております。

○**澤委員** これは開隆堂には余りないということですか。

○**教科書選定研究委員会委員（廣瀬）** 全くないわけではないのですが、バランスよく載っているのが日文のほうです。上の学年のほうについては。

○**澤委員** 小学校では、発表のときも、結構いろいろデジタル機器を利用して子どもたちが資料をつくったりしているので、びっくりしたのですけが。なるほど、そういう意味では、今の時代のバックグラウンドに合ったと言ったらおかしいですけれども。ありがとうございます。

○**永山委員** 日文の5、6年生で記載されている題材ですが、先日、指導室訪問の際に、この題材が使用されていてすごく印象に残って、覚えていたのですけれども、教科書が変わると、こういうことをやること自体も変わってくるわけですね。

○**教科書選定研究委員会委員（廣瀬）** そうですね、基本的には、教科書中心ですが、この題材を生かして子どもの発想を取り入れていきますので、必ずしも、教科書と同じというよりは、そこか

ら子どもたちの想像を抱かせますので、それまでの既習の学習事項などをもとに、子どもたちがアイデアを膨らませ、図工の教員はそれを生かしつつ、今までと全く同じというわけでは。

○綱川委員長 ありがとうございます。

港区というと、地の利を生かして、芸術鑑賞という機会が、各校で、結構あって、近くにサントリー美術館があり、新国立美術館がありということで役に立っていると思うのですが、その観点で何かご意見はございませんか。

○教科書選定研究委員会委員（廣瀬） その観点は、開隆堂、日文とも美術館との連携ということについては取り上げられていますので、どちらがバランスが用量が多い、少ないではなく、両方ともその美術館について取り上げられています。

○綱川委員長 ほかによろしいでしょうか。それでは、廣瀬先生、お疲れさまでした。

続きまして、家庭の説明を三浦先生よろしくお願いします。

○教科書選定研究委員会委員（三浦） 家庭科の説明をいたします。担当の御田小学校長の三浦です。よろしくお願いします。

それでは、家庭科は、東京書籍と開隆堂の2冊でございます。

研究の観点（1）内容の選択についてです。

東京書籍の19ページをご覧ください。学習活動の知識や身に付けた技能が、実生活のどの場面で役立つか、明確に記されている特徴があります。これにより、学校で学習したことや実習したことを家に帰ってやってみようという効果が見られます。

71ページをお開きください。また、学習カードの例があり、直接書き込んで使えるのが特徴です。これにより、子どもにとっては学習の振り返りができ、担任は子どもの教材観をつかめ、コメントを直接記入できます。

開隆堂の13ページをお開きください。安全や衛生に注意することや災害に備える内容に関連するところにわかりやすくマークが記されている特徴があります。これにより実習中の安全性はより高まり、日ごろからの防災意識が向上する効果が見られます。

また、105ページをご覧ください。環境保全に関する内容も多いので、社会科等他教科と関連づけて学習することが可能になります。

続いて、研究の観点（2）構成・分量についてです。

東京書籍の18ページをお開きください。全ての題材が3ステップになっているのが特徴です。見つめよう、計画しよう、新しい課題を見つけよう、これにより全ての題材で課題解決型の指導が可能になります。

開隆堂です。開隆堂は見開きの1ページまたは64ページですが、入学時から中学生までの家庭科の学習の見通しが示されており、特に5、6年生の授業においては、2年間を見通す題材の構成と配列の工夫がなされているという特徴があります。これにより発達段階に応じた学習や振り返り指導に影響があります。

では、研究の観点（3）表記・表現についてです。

東京書籍です。69ページをご覧ください。必要に応じて図や写真が使い分けられており、チェックする欄や書き込みができる特徴があります。これにより自己の題材の理解や技能のつまずきに気づくことができます。

そして、119ページの巻末でございますが、こちらのほうは写真がほぼ実寸大です。右利き用・左利き用と書いてありまして、非常に授業者も子どもも具体的に見やすいという特徴がございます。

開隆堂でございますが、73ページが一応例として、製作例やおかずの例の写真が多く、説明が簡潔に表現されている特徴があります。これにより特に調理の手順等は実習のイメージがつかみやすくなり、家に帰っても実際にやってみようという動機づけになります。

最後、研究の観点(4)です。使用上の便宜・その他についてですが、東京書籍のほうは55ページをご覧ください。多くのイラストによる説明があり、このイラストを例えばそのまま拡大コピーして黒板に張って使えるという特徴があります。これにより専科でない教師や講師が利用しても授業を行いやすい特徴があります。

開隆堂でございますが、開隆堂は、例として101ページをご覧ください。写真や吹き出しを活用した情報量が多いのが特徴です。これにより専科でない教師や講師が利用しても授業を行いやすい影響があります。

以上で家庭科の説明を終わります。

○小島委員 ほとんど専科でないのですか。それとも、家庭科は専科の先生がほとんど教えるのでしたか。逆でしたか。

教科書選定研究委員会委員(三浦) 港区で専科は1名です。

○小島委員 でしたら、専科でない先生が教えるにあたって大事だという方法を重視しなくてはいけないですね。専科でない先生でも教えられる。

○綱川委員長 では、私から。東京書籍のほうが、イラストが多くて、写真も多いですよ。

○教科書選定研究委員会委員(三浦) 開隆堂のほうの写真が多いです。

○綱川委員長 写真が多い。料理のレシピもわかりやすいのですけれど、こっちはほとんどイラストですね。

教科書選定研究委員会委員(三浦) はい、イラストが多いです。

○綱川委員長 専科ではないという問題もありまして、ほとんど何か料理とかそういう家庭に関しては、保護者の方にヘルプを頼んでやっている学校が結構あると思います。その辺で何か特徴がありますか。要するに、先生が専科でないというような視点でどっちがとか。

教科書選定研究委員会委員(三浦) まず、開隆堂は写真ですので、実際に手に持ちながら子どもができるんじゃないかと。写真は拡大してもなかなか見づらいのですが、イラストは拡大すると、一斉に授業ができるのではないかとということで、それぞれ持ち味があると思います。

○綱川委員長 わかりました。

○澤委員 開隆堂の1番、内容の選択のアのところですけども、実習のほうの内容については、児童の生活に沿った場面から取り上げる工夫が必要であるとありますが、これはどういう意味です

か。問題提起みたいなことなのですが、具体的には。

教科書選定研究委員会委員（三浦） そうですね、例えば、話題になった調理器具一つにしても、今はほとんど電気だと思うのですが、ガス釜を使うとか、住居が港区の場合は、高層マンション住まいの方が多いので、題材が北と南の住居では身近ではないのかなと思います。

○澤委員 なるほど、そういう場面が、港区の子どもたちにとって必ずしも合っていない。わかりました。

○綱川委員長 それは教えるときにアレンジしてやったほうがいいよという意味でこれは書いてあるのですね。

教科書選定研究委員会委員（三浦） そういうことです。港区の子どもの教科書としてはいいのではないかなと思います。

○澤委員 構成・分量については、東書も開隆堂も年間の配当時間、今与えられている時間では、教科書の分量・内容が多いとありますが、これはどちらの教科書もそういうことですか。今の与えられた時間からすると、これだけ全部教えるのは難しいということですか。

○教科書選定研究委員会委員（三浦） そのとおりです。やはり家庭科は実習が非常に多くありますから、個人差がありますので、こちらを全部教え込もうとすると、時間内におさまらないということです。

○選定委員（家庭） 5年生が60時間で、6年生が55時間です。

○綱川委員長 週当たり1.9ということですね。でも、それは指導要領にはそれだけのことが書いてあるわけですね。

○教科書選定研究委員会委員（三浦） はい。

○小島委員 家庭科を専科としている先生は、港区では、区に1人ということですが、私の場合も何十年も前のことですが、家庭科は女性の専科の先生が教えてくれました。

○綱川委員長 筈小学校にも12クラスだけど、数年前まではいらっしかったです。

○指導室長 教員の配置人数は学級数によって決まっています、17学級から専科教員を学級数に対して3人配置しています。実際には、青南小は18学級あるのですが、専科教員に理科専科を1名入れています。

ただ、小学校の場合は、14学級以上は、講師として何時間か申請するととれることになっていますので、家庭科は講師の配置という扱いで配置することができます。

ただ、正規の教員ではない形での配置になります。14学級から16学級ぐらいの間の学校はいくつかあると思うのですが、その学校は都の講師としての時間講師に家庭科を教えていただいています。

○澤委員 三浦先生が言われたように、ほとんどの場合、専科ではない先生が教えているのですね。

○綱川委員長 担任が教えてたりするわけですね。

○小島委員 料理とか裁縫とか、かなり技術的に難しい。

○指導室長 実際に、保護者のボランティアの方に来ていただいたり、地域の人たちに来ていただいたりしています。

今、三浦先生がご説明いただいたように、そういった状況の中で、どういう教科書が使いやすいかということで、ご報告いただきました。

○永山委員 昔の話ですけど、昔はもっと、高度なものをつくったような気がするのですが、だんだん少なくなってきたようです。

○綱川委員長 ほかにございますでしょうか。家庭は、授業時間あまりありませんが、生きる力というのは大事ですから。三浦先生ありがとうございました。

各教科書について資料の説明をいただきました。また、質疑ありがとうございました。

教育委員の皆様におかれましては、これまで各教科書について十分な検討及び研究を行ってきたと思いますが、本資料を貴重な参考資料として、次回開催の教育委員会での採択に向けてさらに研究を深めていただくようお願いいたします。

本日の予定している案件は全て終了しましたが、庶務課長、その他、何かございますでしょうか。

○庶務課長 ございません。

○綱川委員長 わかりました。なければ、これをもちまして閉会といたします。

次回は、定例会を8月5日火曜日、午前10時30分からの開催です。よろしく願いいたします。

本日は、午前、午後と長時間、お疲れさまでした。(午後2時48分)

会議録署名人

港区教育委員会委員長 綱川 智久

港区教育委員会委員 澤 孝一郎